

猪名川・藻川の河道及び河川環境の特性

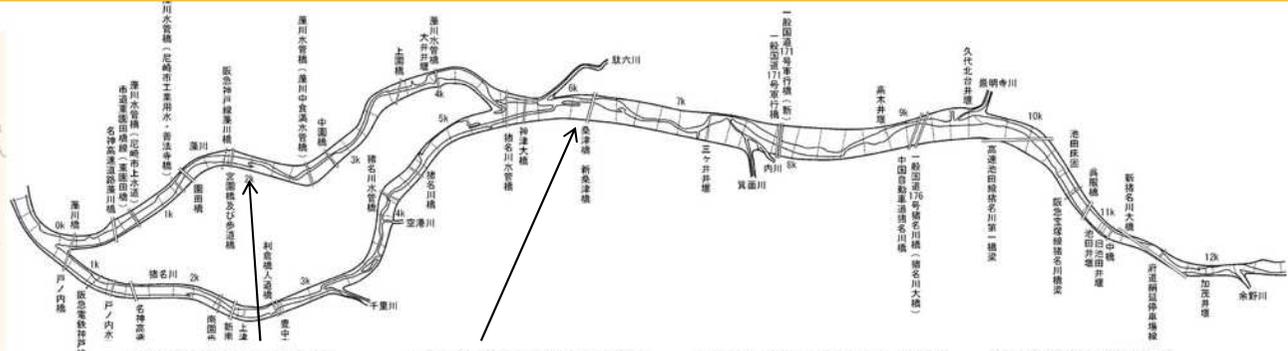
<目次>

1. 猪名川流域の概要	1
1.1 流域・河川の概要	1
1.2 河川改修の変遷	2
2. 河道及び河川環境の特性	3
2.1 河道・流出特性	3
2.2 土砂移動特性	4
2.3 水陸移行帯	7
2.4 汽水環境	9
3. 河川環境の特性	10
3.1 植生分布	10
3.2 魚類の生息状況	11
3.3 底生動物の生息状況	12
3.4 回遊性の魚類及びエビ・カニ類の生息状況	13
3.5 外来生物	14
3.6 堤防植生	16
3.7 水環境	17
参考資料 猪名川の現在と過去	19

1. 猪名川流域の概要

1.1 流域・河川の概要

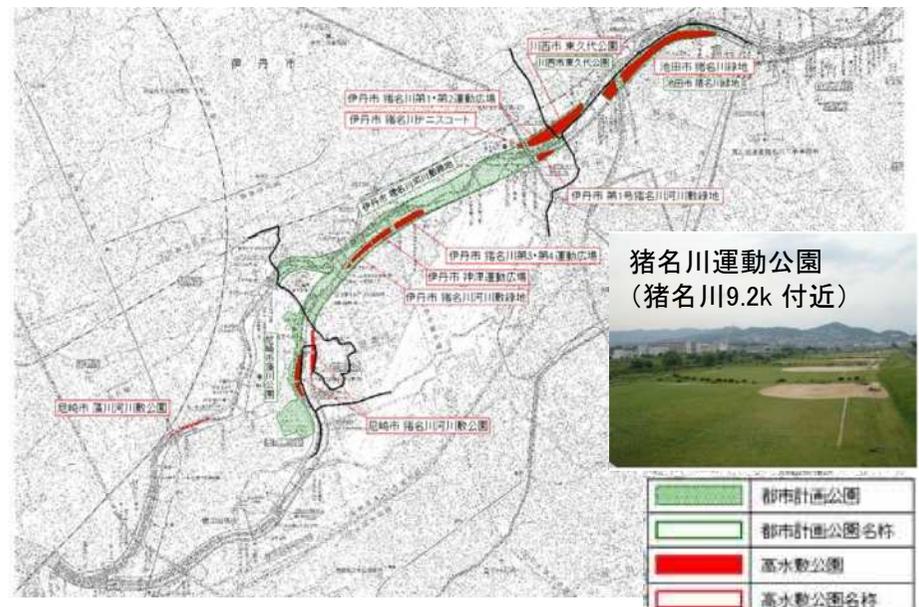
- 猪名川は一級水系淀川に属し、源を兵庫県猪名川町大野山に発し、渓谷を南下し、途中、一庫大路次川、余野川、千里川などの支川を合わせながら大阪湾に流入する神崎川と合流(神崎川河口から約6.5km上流地点)する都市河川である。
- 銀橋下流の狭窄部に代表されるように猪名川の上流部は渓谷の様相を呈しているが、中下流部は川幅が比較的広く、河道内の所々に瀬や淵がある。
- 河川敷は散策やスポーツ等で多くの人に利用されている。高水敷化が進んでおり、河川公園やグラウンド等として、広範囲に渡り都市計画公園等が整備されている。



猪名川の河川風景



平成19年3月撮影



猪名川運動公園 (猪名川9.2k 付近)



流域面積	383km ² (山地287km ² 、平地96km ²) [大阪・兵庫・京都の2府1県]
幹線流路延長	43km [直轄区間: 12.6km、藻川4.8km]
流域内人口	約180万人

猪名川流域図

高水敷の整備状況

1. 猪名川流域の概要

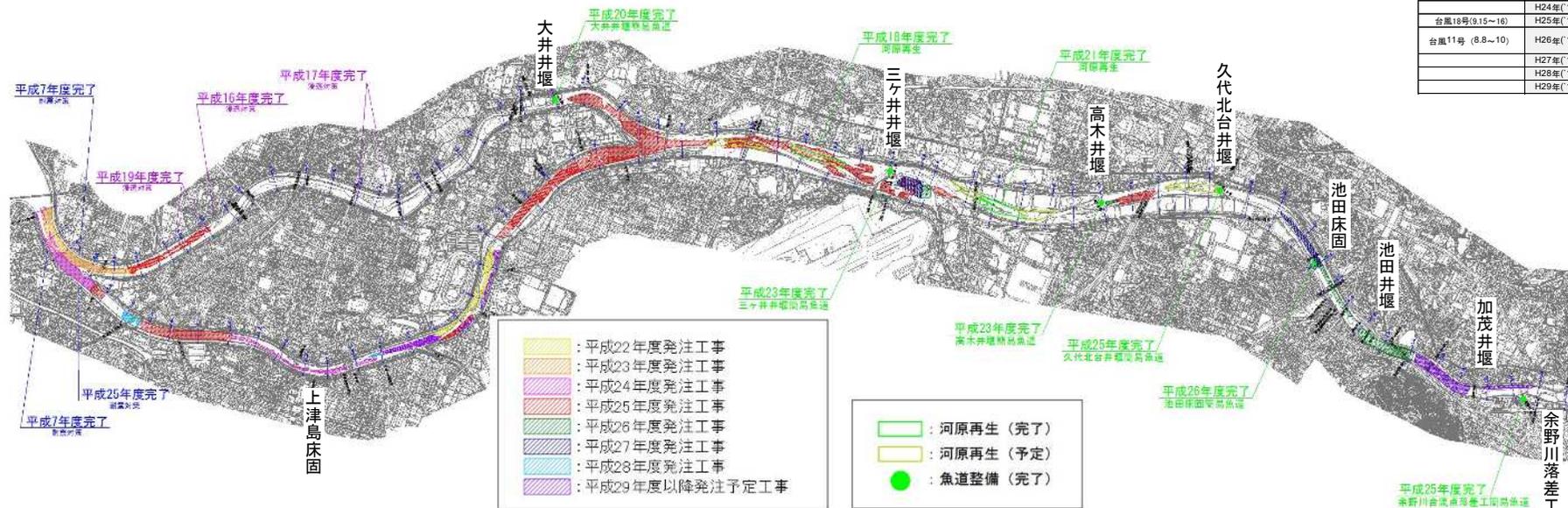
- 上流域では、昭和58年に一庫ダム運用を開始した。
- 河道域では、横断工作物が多数設置されている。昭和57年に池田井堰の改修や平成13年に加茂井堰の改築を行っており河道の拡幅・切下げを行っている。
- 「淀川水系河川整備計画（H21.3策定）」に基づく河道掘削が進められており、平成29年度は、猪名川11k付近～上流区間、及び猪名川3k～4k区間を行う予定である。河道掘削が行われた区間では、改修前に比べて1m～2m程度平均河床高が下がっている。
- 改修が進むとともに河川公園としての高水敷整備が進んでいる。

1.2 河川改修の変遷



猪名川河道改修年表

災害名	年号	改修計画及び工事	改修工事のあゆみ
梅雨前線による増水(7.1)	S7(32)		
室戸台風(9.21)	S8(33)		
梅雨前線による猪名川大洪水	S10(35)		
	S11(36)		
	S12(37)		
阪神大水害(7.5)	S13(38)		
	S14(39)		
	S15(40)		内務省(当時)の直轄工事として河川改修工事を開始
	S16(41)		
	S17(42)		
	S18(43)		
	S19(44)		
秩崎台風(9.17)	S20(45)		
阿久根台風(10.8)	S21(46)		
	S22(47)		
	S23(48)		
	S24(49)		
ジェーン台風(9.3)	S25(50)		
ルース台風(10.15)	S26(51)		
	S27(52)		
台風13号(9.24)	S28(53)		●池田井堰
集中豪雨(6.28～30)	S29(54)		流量改訂を含む猪名川・淀川の河道改修計画の改訂
集中豪雨(7.4～6)	S30(55)		
	S31(56)		
台風5号(8.27)	S32(57)		
	S33(58)		
伊勢湾台風(9.27)	S34(59)		
台風16号(8.29)	S35(60)		
第二室戸台風(台風18号)9.16	S36(61)		
	S37(62)		
	S38(63)		
	S39(64)		●三ヶ井井堰 ●大井井堰補足
台風24号(9.17)	S40(65)		●久代北台井堰 4月、新河川法施工。猪名川は一級水系淀川に属する。従来の河川改修計画を除滅した工事実施基本計画を策定
	S41(66)		
台風7号(8.29)	S42(67)		●高木井堰
台風10号(8.29)	S43(68)		●日本万国博覧会関連整備事業(築堤護岸整備)
	S44(69)		●大井井堰
	S45(70)		
	S46(71)		猪名川の治水計画全面的に改訂。洪水調節と各種用水を補給することを目的とした一庫ダム等の多目的ダム群を建設し治水安全度1/200とする工事実施基本計画に改訂
前線豪雨(7.12)	S47(72)		
台風20号(9.16)	S48(73)		
	S49(74)		
	S50(75)		
	S51(76)		
	S52(77)		
梅雨前線(6.16)	S53(78)		
	S54(79)		
	S55(80)		
	S56(81)		●中橋架替
台風10号(8.2)	S57(82)		●池田井堰改築・魚道設置
台風10号(9.28)	S58(83)		猪名川流域整備計画を策定。一庫ダム運用開始
	S59(84)		
	S60(85)		
	S61(86)		
	S62(87)		
	S63(88)		
秋雨前線(9.3)	H元(89)		
	H2(90)		
	H3(91)		
	H4(92)		
	H5(93)		●緊急猪名川横架替
	H6(94)		
	H7(95)		
	H8(96)		
	H9(97)		●兵庫横架替
	H10(98)		
梅雨前線(6.30)	H11(99)		
	H12(00)		
	H13(01)		
	H14(02)		●加茂井堰改築・魚道設置
	H15(03)		
台風23号(10.20)	H16(04)		
	H17(05)		
	H18(06)		●戸ノ内橋、蓮川橋架替
	H19(07)		○河原再生(北伊丹地区)
	H20(08)		淀川水系河川整備基本方針を策定
	H21(09)		●魚道整備(大井井堰)
	H22(10)		●魚道整備(三ヶ井井堰)
	H23(11)		●魚道整備(高木井堰)
	H24(12)		
	H25(13)		
台風18号(9.15～16)	H26(14)		●魚道整備(久代北台井堰、家の川(台原部落差))
台風11号(8.8～10)	H27(15)		●魚道整備(池田床固)
	H28(16)		
	H29(17)		○河原再生(北伊丹地区)

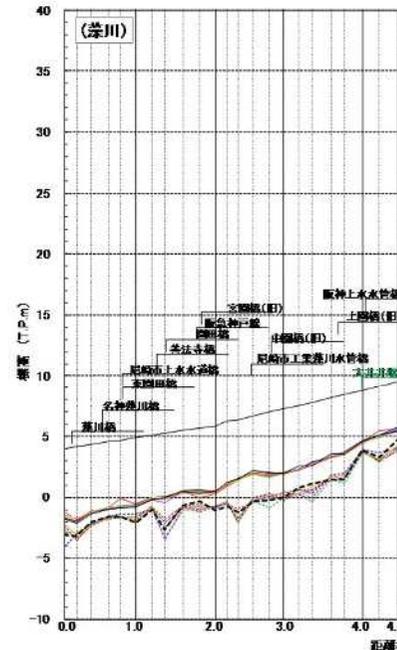
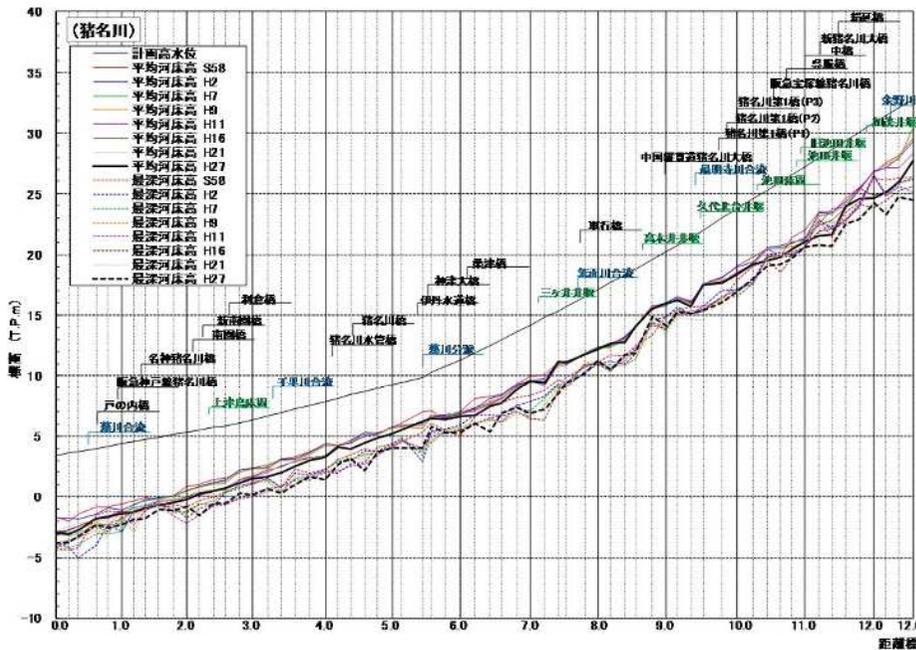


加茂井堰の改築 2

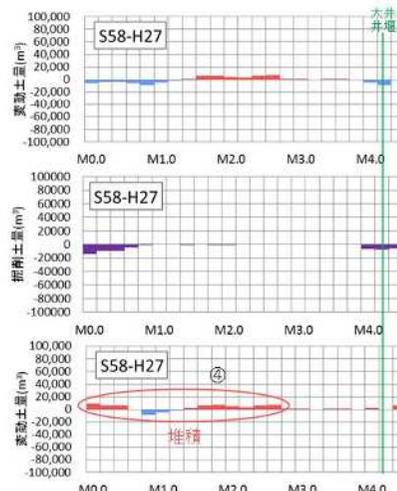
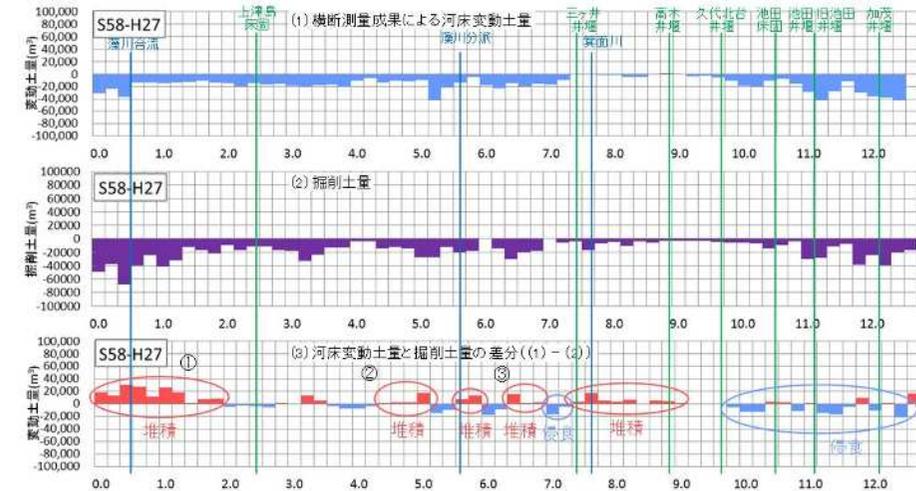
2. 河道及び河川環境の特性

2.1 河道・流出特性

- 定期横断測量成果を用いて河床変動土量、及び工事履歴から掘削土量を算出し、長期的な土砂収支を把握した。
- 猪名川では①汽水域区間(0.0k~2.4k)、②藻川分派下流の5.0k付近、③藻川分派との上流地点で堆積しやすく、④藻川では全川の的に土砂が堆積しやすい状況にある。
- 池田床止から加茂井堰の周辺では、顕著な堆積は見られないが、全体的に低下する傾向にある。H13年度有加茂井堰の改築の影響で土砂が移動しやすくなっていると考えられる。
- 神崎川では平成30年度完了を目標に、計画的に河川整備を進めている。神崎川の掘削土量を見ると、猪名川・藻川の汽水域よりも多くの量を掘削している。
- 流出特性として、既往最大流量は、昭和58年で1600m³/s程度であり、平均年最大流量は500m³/s程度である。



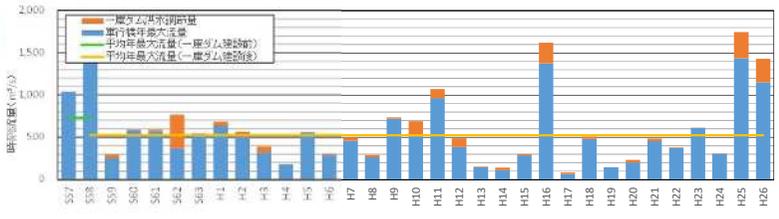
猪名川・藻川 河床高縦断面図 (平均河床高・最深河床高)



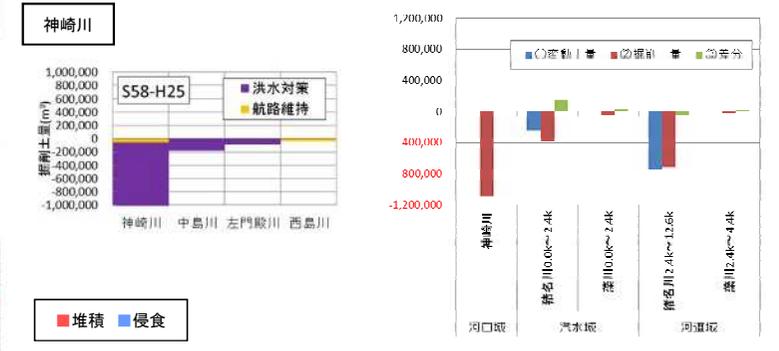
横断工作物の設置状況

測点	橋名	橋長(m)	観高(TP.上)	観高(TP.下)	形式	完成年	管理者	備考
2.4k + 48.4	上津島床固	72.0	-0.33	+1.26	固定堰	昭和43年	国土交通省	
7.2k + 16.2	三ヶ井井堰	247.6	+9.78	+10.78	鋼製自動制御堰	昭和38年	土地改良区	高木井堰改築他工事(平成26年度)で切り下げ
8.6k + 229.8	高木井堰	133.2	+14.88	+15.90	木工沈床	不明	水利組合	
9.6k + 92.2	久代北台井堰	125.7	+16.71	+18.33	木工沈床	昭和40年	水利組合	
10.4k - 20.0	池田床固め	108.4	+19.16	+19.29	—	—	—	桃園・小花地区掘削他工事(平成26年度)で切り下げ
10.8k + 203.3	池田井堰	74.5	+20.75	+23.55	ゴム引	昭和58年	水利組合	
11.4k + 40.0	天王宮床固	62.5	—	+23.90	—	昭和55年頃	—	
11.8k + 133.5	加茂井堰	91.5	+23.75	+27.50	ゴム引	平成12年	国土交通省	
4.0k + 11.0	大井井堰	109.3	+3.07	+5.15	木工沈床、六脚ブロック	昭和44年	水利組合	

※上津島床固の距離標、橋長、観高及び堰床高は平成9年度業務「既設上津島床固の改築一般図」より抜粋
 ※距離標は、平成14年度猪名川重要水防施設整備事業作成業務報告書より抜粋。ただし、池田床固め、池田井堰については猪名川河川構造施設調査報告書より抜粋
 ※天文宮床固の完成年数は猪名川河川重要水防施設整備事業報告書、平成28年3月より抜粋。堰等の形式は猪名川定期観測所調査報告書、平成28年3月より抜粋した



車行橋における年最大時間流量の経年変化 (S57~H26)



神崎川河床変動土量・掘削土量・差分の縦断面図

《区間① 猪名川0.0k~5.2k、区間② 藻川0.0k~4.4k》

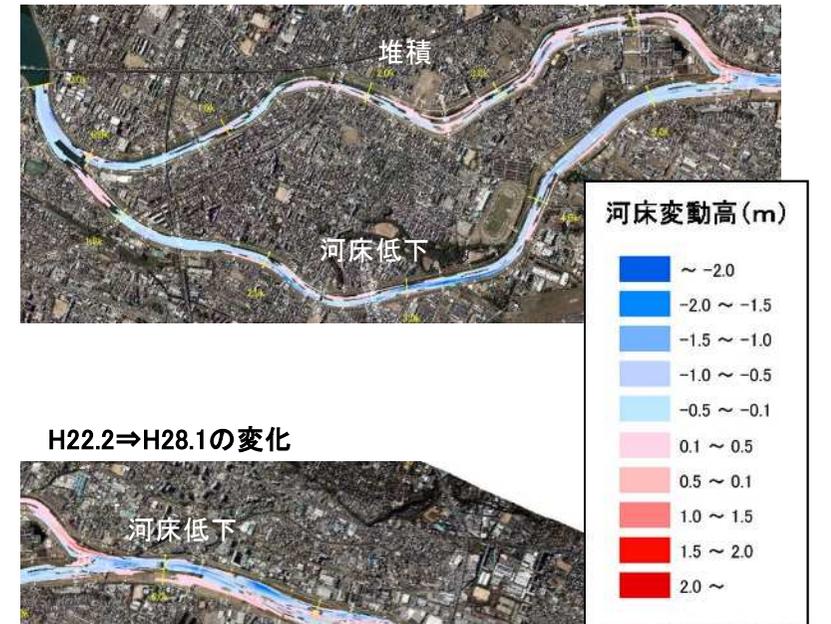
- 平成16年度から平成21年度にかけて、猪名川汽水域(下流端)で堆積量が多い。
- 平成21年度以降は分派付近や汽水域で河道掘削が実施されており、掘削に伴い河床低下が生じている。
- 藻川で、平成21年度以降も堆積が生じており、堆積しやすい河道特性である。

《区間① 猪名川0.0k~5.2k、区間② 藻川0.0k~4.4k》

H17.2⇒H22.2の変化



H22.2⇒H28.1の変化



《区間③ 猪名川5.2k~10.4k》

- 猪名川・藻川の分派地点上流を見ると、平成16年度から平成21年度で堆積、平成21年度から平成27年度では河道掘削により河床が低下した。

《区間③ 猪名川5.2k~10.4k》

H17.2⇒H22.2の変化



H22.2⇒H28.1の変化



《区間④ 猪名川10.4k~12.6k》

- 10.4kより上流は、滯筋の侵食傾向が確認される。
- 11.4kより上流の絹延橋から加茂井堰の区間は引き堤等の大規模工事の影響により変化が大きくなっている。

《区間④ 猪名川10.4k~12.6k》

H17.2⇒H22.2の変化



H22.2⇒H28.1の変化



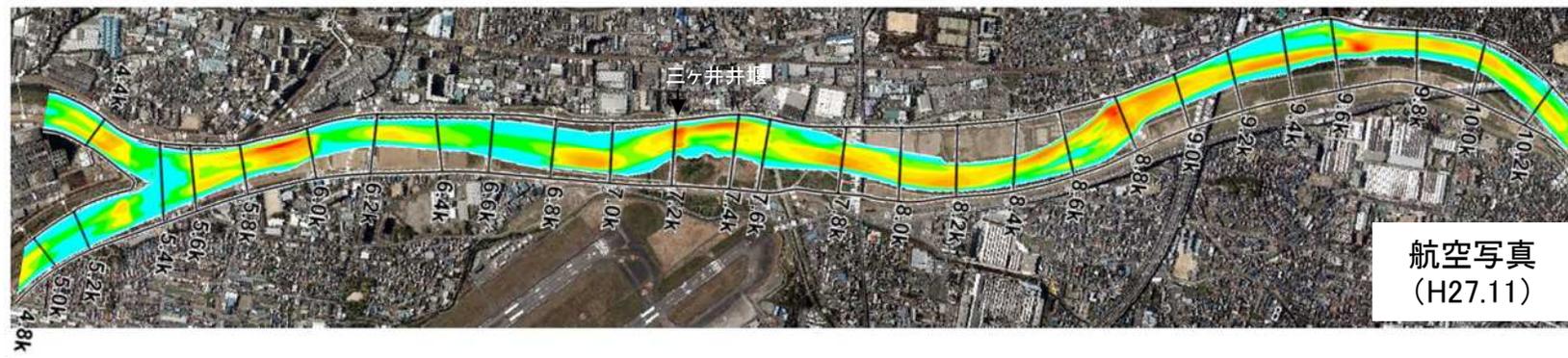
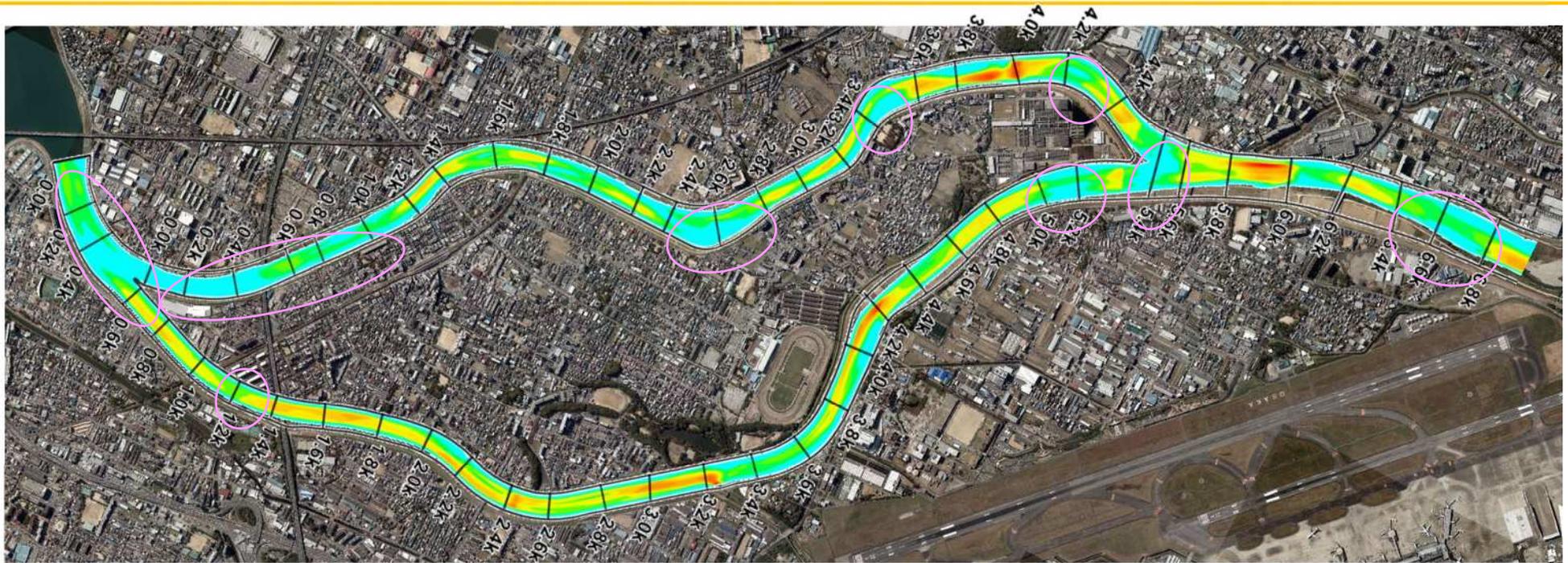
横断測量成果による分析・評価

3時点の横断測量成果(H17.2、H22.2、H28.1)を活用し、横断図の重ね合わせで変動高を算出し、平面分布図に落とし込み分布図を作成した。

2. 河道及び河川環境の特性

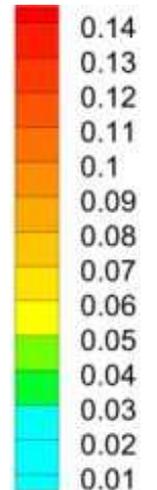
2.2 土砂移動特性 (2) 洪水時の流れの特性

- 平均年最大流量流下時の無次元掃力分布図を作成した。土砂堆積が生じている ①汽水域区間(猪名川0.0k~2.4k)、②猪名川5.0k付近(藻川分派下流)、③猪名川の藻川分派上流地点、④藻川等では、局所的に無次元掃流力が小さくなっている箇所が見られており、上流から移動した土砂が堆積しやすい状況となっている。



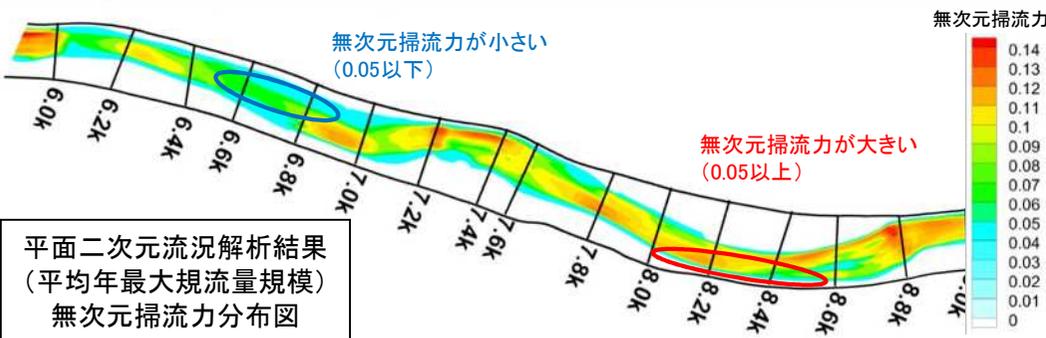
無次元掃流力分布図(平均年最大規流量流下時)

無次元
掃流力



《河原環境やアユの産卵適した環境が創出される要因と土砂供給の重要性》

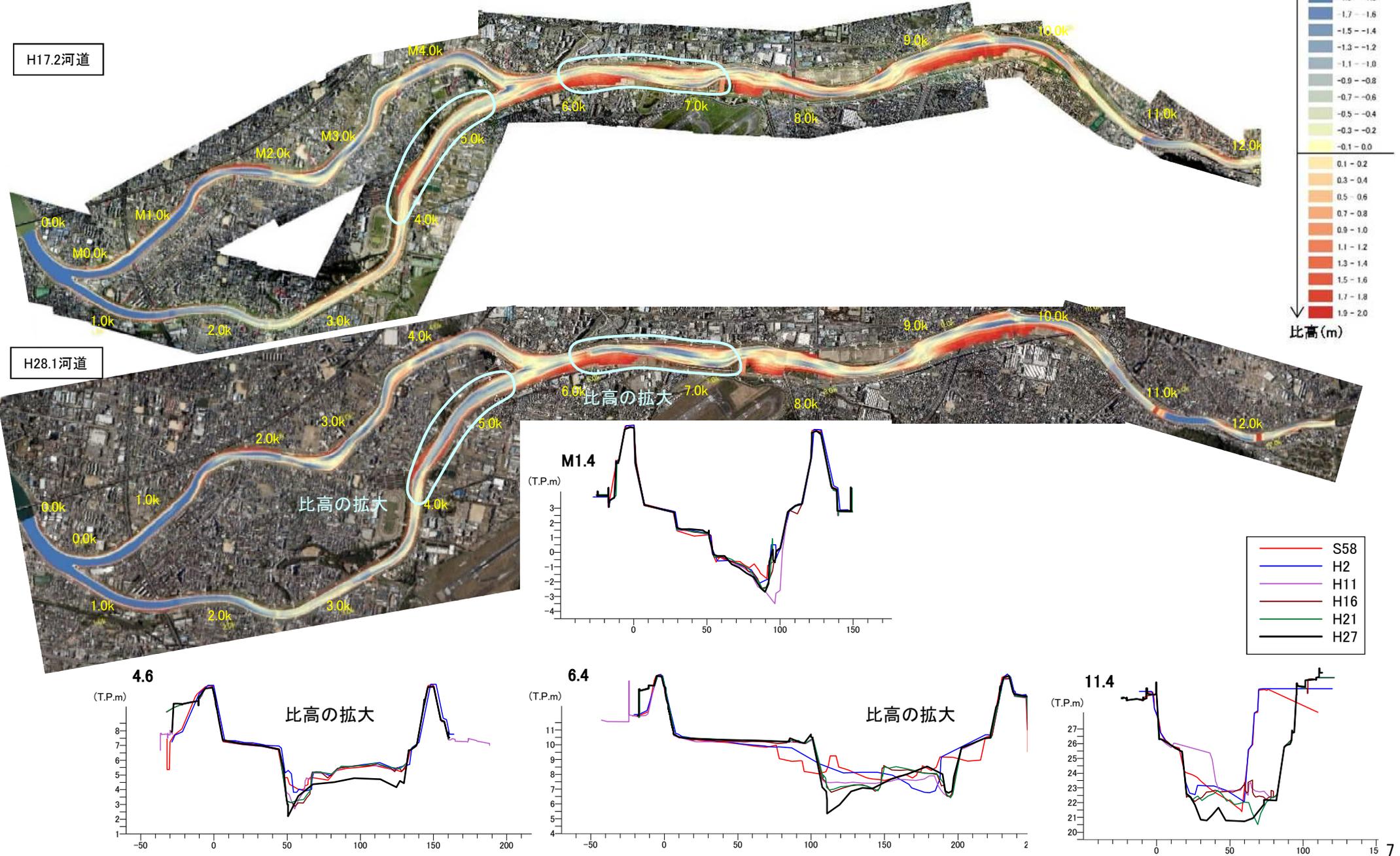
- 高木井堰下流(北伊丹地区の直上流)では、平成28年度にアユ産卵床が確認された。北伊丹地区では堆積箇所が多くあり、河床が軟らかいことから、高木井堰より上流から供給された土砂がこのような場を形成していると考えられる。
- 北河原地区河道掘削工事で、H22.2→H28.1で裸地の面積が増加した。これは、平均年最大流量規模の洪水では無次元掃流力が小さいことから河原環境(裸地)を維持することができなかったが、規模の大きいH26、H27出水により、侵食によって河床が削られて形成されたためと考えられる。
- このため、平均年最大流量規模の洪水で河原環境を維持するためには土砂の供給が重要であると考えられる。



2. 河道及び河川環境の特性

2.3 水陸移行帯 (1) 比高・水深分布

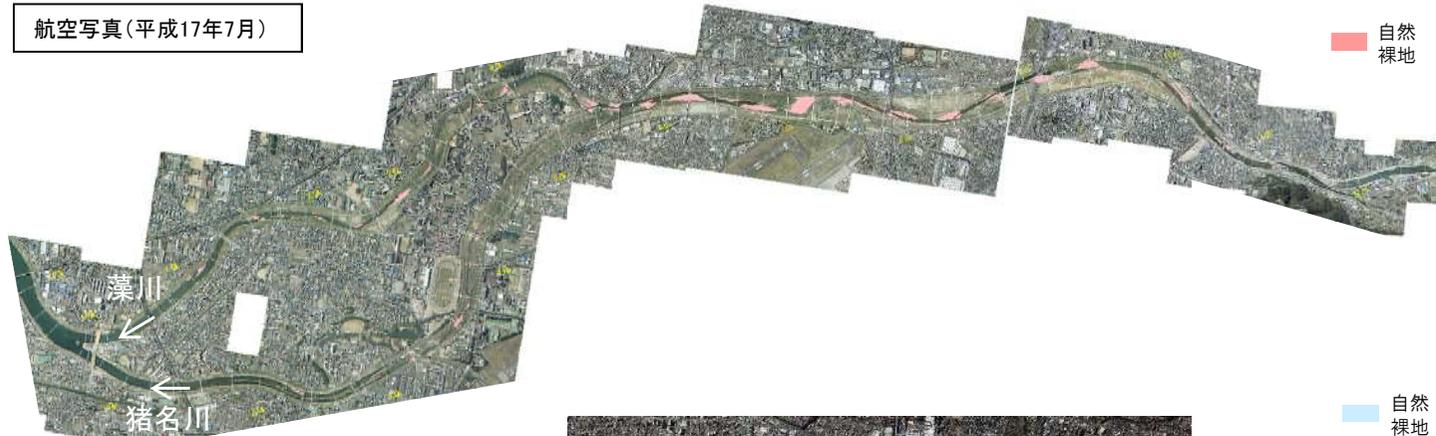
- 平成17年2月と平成28年1月の猪名川と藻川について、横断測量成果と平面二次元流況解析により比高・水深の分布状況を整理した。その結果、猪名川分派地点の下流及び上流側で比高差が拡大している区間を確認した。



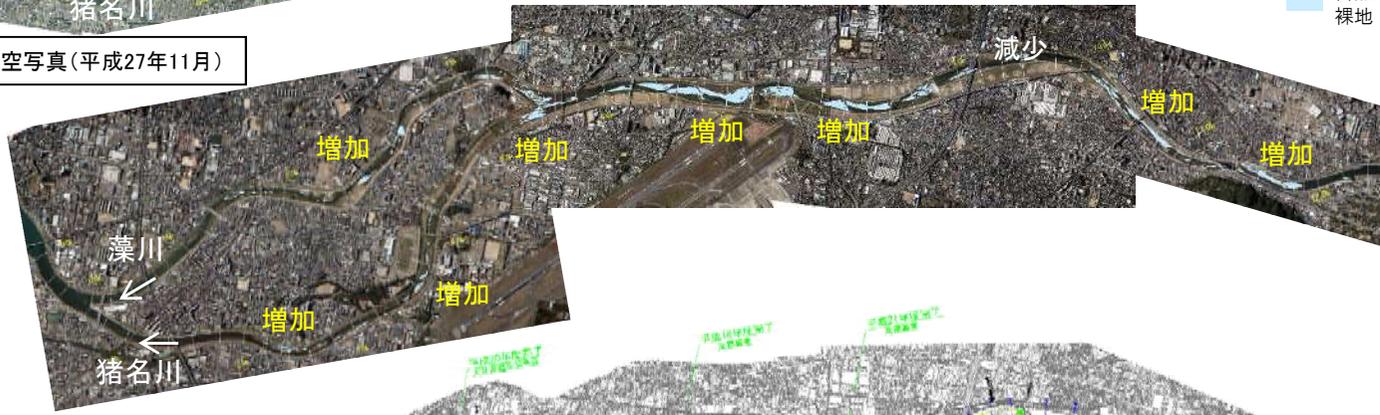
2. 河道及び河川環境の特性

- 航空写真の判読により、自然裸地面積の分布を確認した。猪名川・藻川の分派地点より上流では、自然裸地の増加が見られた。これは、猪名川の全川に渡る河道掘削や平成25年や平成26年の近年の規模の大きい洪水の影響によって土砂が移動したものと考えられる。但し、久代北台井堰下流では裸地が減少している。

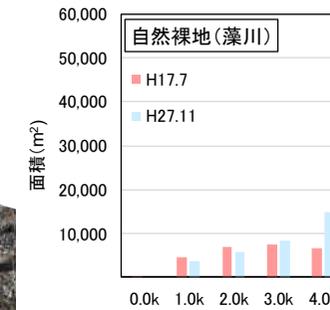
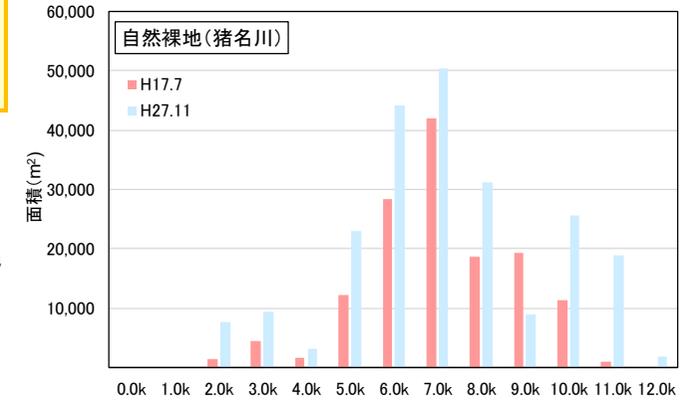
航空写真(平成17年7月)



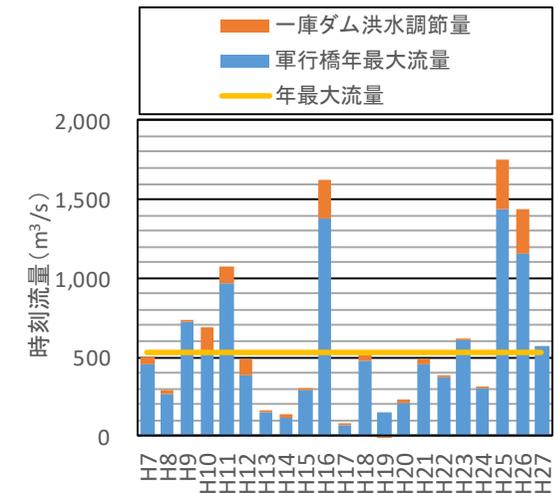
航空写真(平成27年11月)



- 平成22年度発注工事
- 平成23年度発注工事
- 平成24年度発注工事
- 平成25年度発注工事
- 平成26年度発注工事
- 平成27年度発注工事
- 平成28年度発注工事
- 平成29年度以降発注予定工事



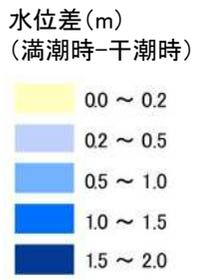
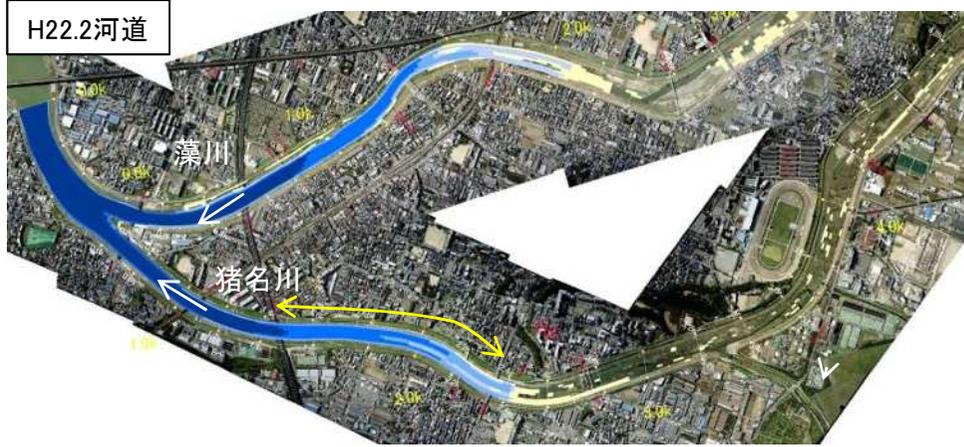
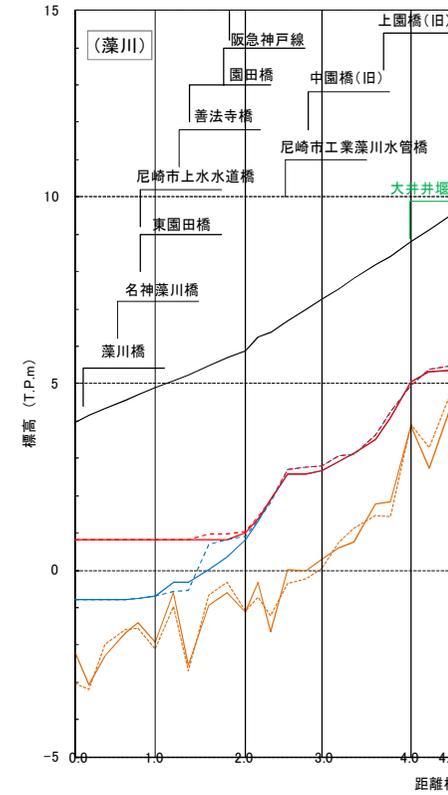
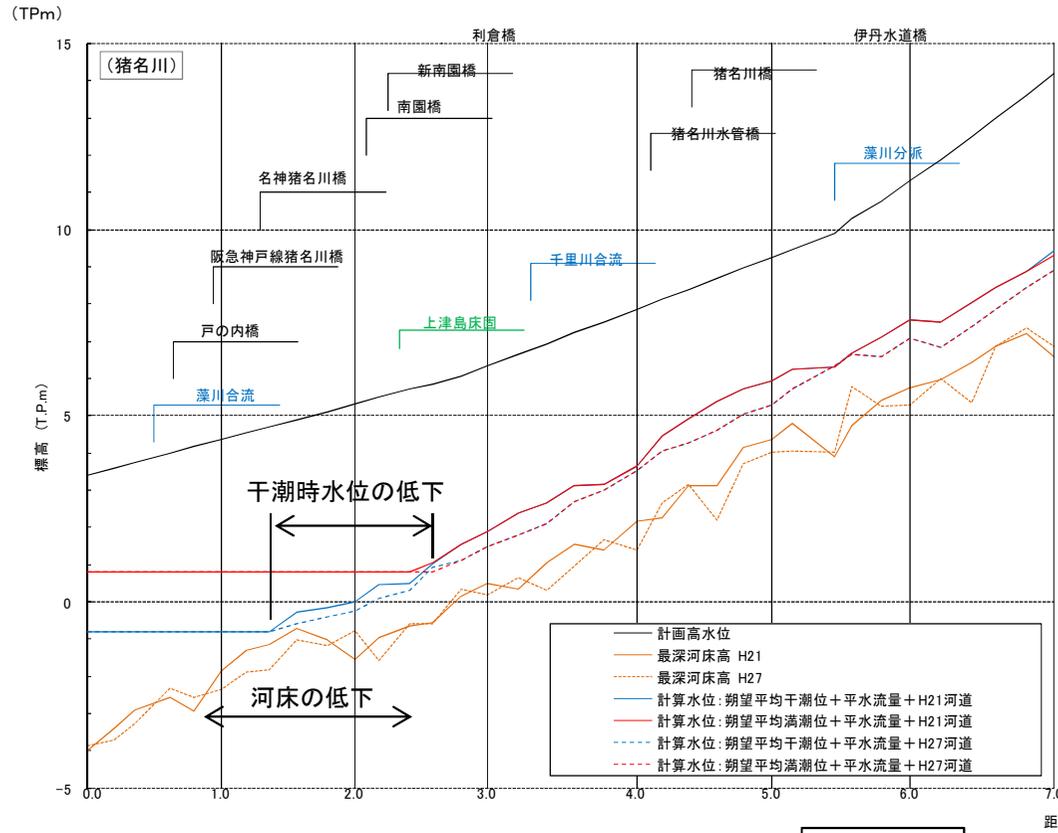
自然裸地の面積変化(H17.7→H27.11)



年最大時間流量の経年変化(軍行橋:H7~H27)

2. 河道及び河川環境の特性

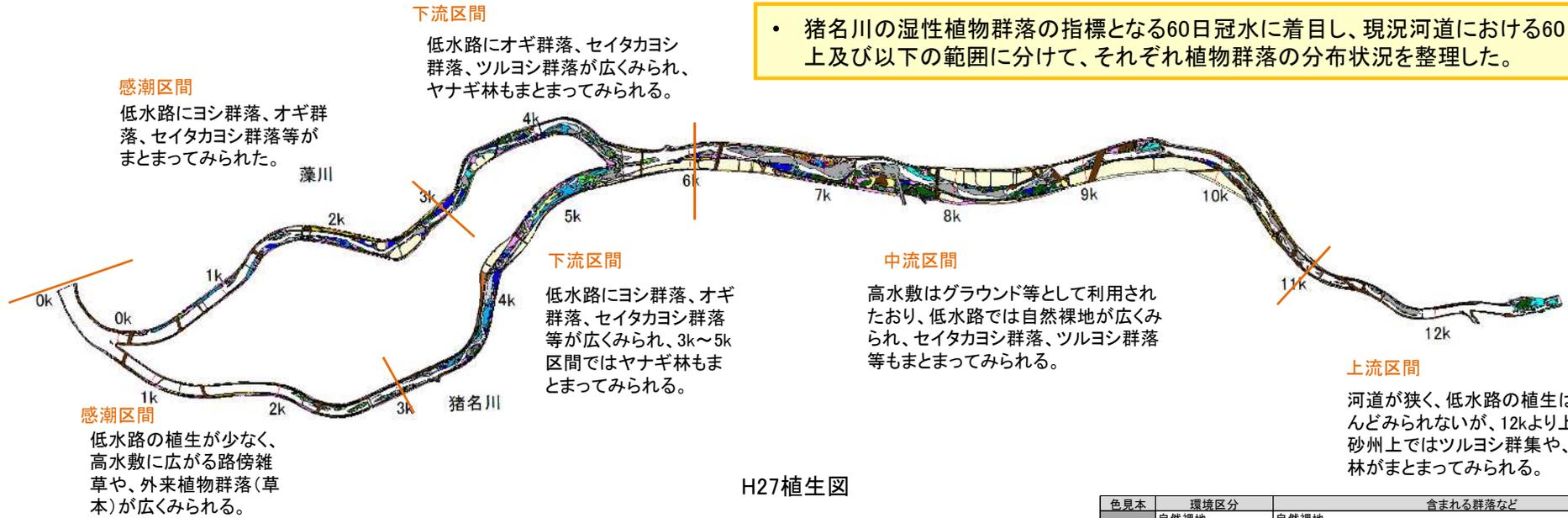
- 汽水環境について干潮時と満潮時の水位縦断面図を算出し、差分値(水位差)を整理した。
- 汽水環境の範囲に変化は生じていないが、猪名川2k付近において河床の低下に伴い干満の差の大きい区間が増加した。



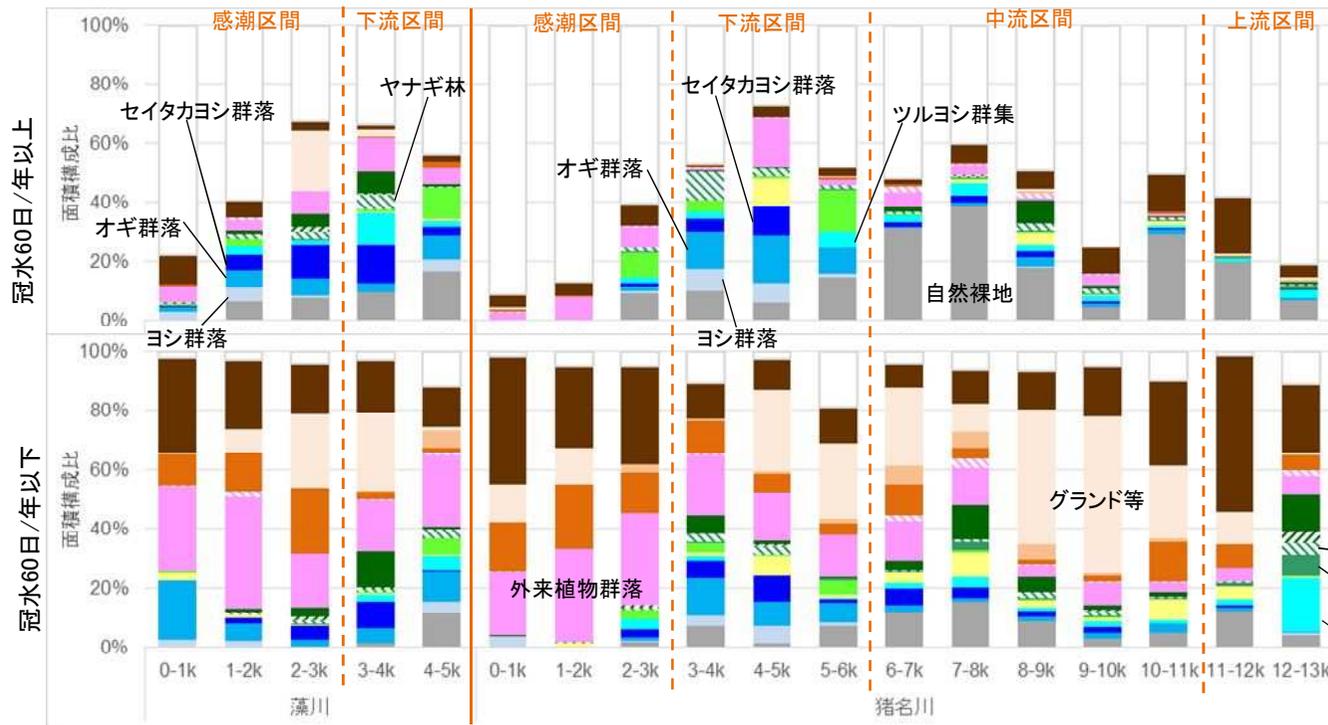
3. 河川環境の特性

3.1 植生分布

・ 猪名川の湿性植物群落の指標となる60日冠水に着目し、現況河道における60日冠水以上及び以下の範囲に分けて、それぞれ植物群落の分布状況を整理した。



H27植生図



色見本	環境区分	含まれる群落など
白	自然裸地	自然裸地
黄	ヨシ群落	ヨシ群落
青	オギ群落	オギ群落
赤	セイタカヨシ群落	セイタカヨシ群落
緑	ツルヨシ群集	ツルヨシ群集
紫	ネコヤナギ群集	ネコヤナギ群集
黒	メヒシバ群落	メヒシバ・エノコログサ群落
水色	流水辺一年草群落	オオイヌタデ・オオクサキ群落、ジュズダマ群落、ミソソバ群落、ヤナギタデ群落、
薄緑	抽水植物群落	セリ・クサヨシ群落、ヒメガマ群落
薄青	河辺林	アキニレ群落、ムクノキ・エノキ群落
薄赤	河辺林(ヤナギ林)	カワヤナギ群落、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落(低木林)
薄黄	陽地性低木林	クコ群落、ノイバラ群落、マダケ植林、マダケ群集、ヤマグワ群落
薄紫	つる植物群落	カナムグラ群落、クサ群落、ヤブガラシ群落
薄黒	外来植物群落(草本)	アレチウリ群落、アレチハナガサ群落、イヌキクイモ・キクイモ群落、オオオナモミ群落、オオカタメ群落、オオバタクサ群落、オオタイトゴメ群落、キシウズメノヒエ群落、コメイ群落、コセンダングサ群落、シナダレスメガヤ群落、シマズメノヒエ群落、シヤクチリソバ群落、セイタカアワダチソウ群落、セイバンモロコシ群落、タチズメノヒエ群落、ネズミギ群落、ヒメムカシヨモギ・オオアレチノギク群落
薄水色	外来植物群落(木本)	コノゼンカズラ群落、シダレヤナギ植林、シナサワグルミ植林、シンジュ群落、センダン群落、ナンキンハゼ群落、ハリエンジュ群落
薄青	路傍雑草群落	イタドリ群落、オヒシバ・アキメシバ群集、カラムシ群落、ギョウギシバ群落、ヨモギ・メドハギ群落
薄赤	刈り取り草原	ススキ群落、チガヤ群落
薄黄	グラウンドなど	シバ群落、公園・グラウンド
薄紫	構造物他	コンクリート構造物、果樹園、構造物、植栽樹林群、人工裸地、道路、畑地(畑地雑草群落)、
薄黒	開放水面	開放水面

河辺林(ヤナギ林)
河辺林
ツルヨシ群集

3. 河川環境の特性

3.3 底生動物の生息状況

- 底生動物のうち、エビ・カニ類及び重要種に着目すると、汽水性の種類の出現は藻川0~3k及び猪名川0~2kに限られており、特に藻川0~1kに偏っている。
- 回遊性の種類は、回遊性の種類は、藻川全域及び猪名川全域で幅広く確認されている(モクスガニ、スジエビ)。別途、魚道モニタリング調査等においても下流区間~上流区間でテナガエビ等が確認されている。
- 止水あるいは緩流を好む淡水性の種類は、藻川では2kより上流、猪名川では全域で、幅広く確認されている。猪名川3~5kで比較的多まった種類数が確認されていることから、猪名川3~5kのワンド・たまりは、止水性の種類の重要な分布域であると考えられる。
- 瀬を好む種類の出現は、魚類同様に藻川4k~5k及び猪名川5kより上流に限られている。

環境情報図(平成28年度更新)に基づく1kピッチの底生動物(重要種及びエビ・カニ類)の出現状況

No.	回遊性	生息域	流れ	植生依存	科名	種名	重要種※1	外来種※2	藻川								
									感潮区間	下流区間			上流区間				
									0-1k	1-2k	2-3k	3-4k	4-5k				
1	-	汽水・海水	-	-	クルマエビ科	ヨシエビ			●								
2					モクスガニ科	ケフサイソガニ											
3						タカノケフサイソガニ											
4					汽水	-	-	カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ	●							
5								シジミ科	ヤマトシジミ	●							
6								ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ	●							
7		回遊	汽水~淡水	-	-	ヤマトカワゴカイ	●										
8						カワゴカイ属	カワゴカイ	●									
9						ペンケイガニ科	クロベンケイガニ	●									
10						アカテガニ	●										
11						ヌマエビ科	ミノソレヌマエビ	●									
12						テナガエビ科	テナガエビ	●									
13	-	淡水	-	-	モクスガニ科	モクスガニ											
14					モノアラガイ科	コンダカヒメモノアラガイ	●										
15					モノアラガイ	●											
16					ヒラマキガイ科	ヒラマキズマイマイ	●										
17					ヒラタビル科	ミドリビル	●										
18					イボビル	●											
19		回遊	汽水~淡水	-	-	ヌマエビ科	Neocardinia davidi	●									
20						カワリヌマエビ属	●										
21						アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	●									
22						コオイムシ科	コオイムシ	●									
23						ガムシ科	コガムシ	●									
24						ヒメドロムシ科	ヨコモドロムシ	●									
25	トンボ科	コフキトンボ	●														
26	-	淡水	-	-	エトシトンボ科	キイロヤマトンボ	●										
27					サナエトンボ科	キイロサナエ	●										
28					ホソサナエ	●											
29					アオサナエ	●											
30					ヒメサナエ	●											

汽水・海水性種
(藻川0-1kに偏る)

回遊性種

止水・緩流を好む種

瀬を好む種

※1) 重要種の選定基準
天然記念物、文化財保護法、文化財保護法(施行令)に定める天然記念物
種の保存法(絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律)指定種
環境省「環境省レッドリスト2017」の公表について(環境省報道発表資料、平成28年3月31日)に記載のある種
CR: 絶滅危惧IA類, EN: 絶滅危惧B類, VU: 絶滅危惧C類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足
※2) 外来種の選定基準
CR: 絶滅危惧IA類, EN: 絶滅危惧B類, VU: 絶滅危惧C類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足
伊丹市「生物多様性計画(伊丹市、2014)」伊丹市の重要生物種(重要種)
*A: ナタシ, B: ナタシ, C: ナタシ, 要注目, 要注目, 要注目, 要注目, 要注目, 要注目
※3) 外来種の選定基準
伊丹市「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年法律第78号)」
平成22年一部改正で増定された種
*特定外来生物
*生態系被害防止: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種(環境省「農林水産省」平成22年)に指定された種
*侵入(国外・国内): 定着予防外来種のうち、侵入予防外来種(国外由来・国内由来)。
*定着(国外・国内): 定着予防外来種のうち、その他の定着予防外来種(国外由来・国内由来)。
*緊急(国外・国内): 緊急予防外来種のうち、緊急予防外来種(国外由来・国内由来)。
*重点(国外・国内): 重点予防外来種のうち、重点予防外来種(国外由来・国内由来)。
*その他(国外・国内): 総合的外来種のうち、その他の総合的外来種(国外由来・国内由来)。
*産業(国外・国内): 産業管轄外来種(国外由来・国内由来)。
*兵隊魚白: 兵隊魚の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物(フラックスリスト)(兵隊魚、2010)で指定された種
*軍艦, 軍艦, 注意, 注意種
伊丹市「生物多様性計画(伊丹市、2014)」地域の健全な生態系に重大な影響を及ぼす疑わしい外来種
*侵入: 重点外来種, 帰化, 帰化種, 帰化種
その他: 外来種(ハンドブック)(日本生態学誌, 村上正二, 野村正二, 2002)に記載された種及び重要種
*国外: 国外移動の外来種, 国内: 国内移動の外来種

No.	回遊性	生息域	流れ	植生依存	科名	種名	重要種※1	外来種※2	猪名川																
									感潮区間			下流区間			中流区間			上流区間							
									0-1k	1-2k	2-3k	3-4k	4-5k	5-6k	6-7k	7-8k	8-9k	9-10k	10-11k	11-12k	12-13k				
1	-	汽水・海水	-	-	クルマエビ科	ヨシエビ																			
2					モクスガニ科	ケフサイソガニ																			
3						タカノケフサイソガニ																			
4					汽水	-	-	カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ	●															
5								シジミ科	ヤマトシジミ	●															
6								ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ	●															
7		回遊	汽水~淡水	-	-	ヤマトカワゴカイ	●																		
8						カワゴカイ属	カワゴカイ	●																	
9						ペンケイガニ科	クロベンケイガニ	●																	
10						アカテガニ	●																		
11						ヌマエビ科	ミノソレヌマエビ	●																	
12						テナガエビ科	テナガエビ	●																	
13	-	淡水	-	-	モクスガニ科	モクスガニ																			
14					モノアラガイ科	コンダカヒメモノアラガイ	●																		
15					モノアラガイ	●																			
16					ヒラマキガイ科	ヒラマキズマイマイ	●																		
17					ヒラタビル科	ミドリビル	●																		
18					イボビル	●																			
19		回遊	汽水~淡水	-	-	ヌマエビ科	Neocardinia davidi	●																	
20						カワリヌマエビ属	●																		
21						アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	●																	
22						コオイムシ科	コオイムシ	●																	
23						ガムシ科	コガムシ	●																	
24						ヒメドロムシ科	ヨコモドロムシ	●																	
25	トンボ科	コフキトンボ	●																						
26	-	淡水	-	-	エトシトンボ科	キイロヤマトンボ	●																		
27					サナエトンボ科	キイロサナエ	●																		
28					ホソサナエ	●																			
29					アオサナエ	●																			
30					ヒメサナエ	●																			

汽水・海水性種

回遊性種

止水・緩流を好む種
(猪名川3-5kで比較的多まった種類数)

瀬を好む種

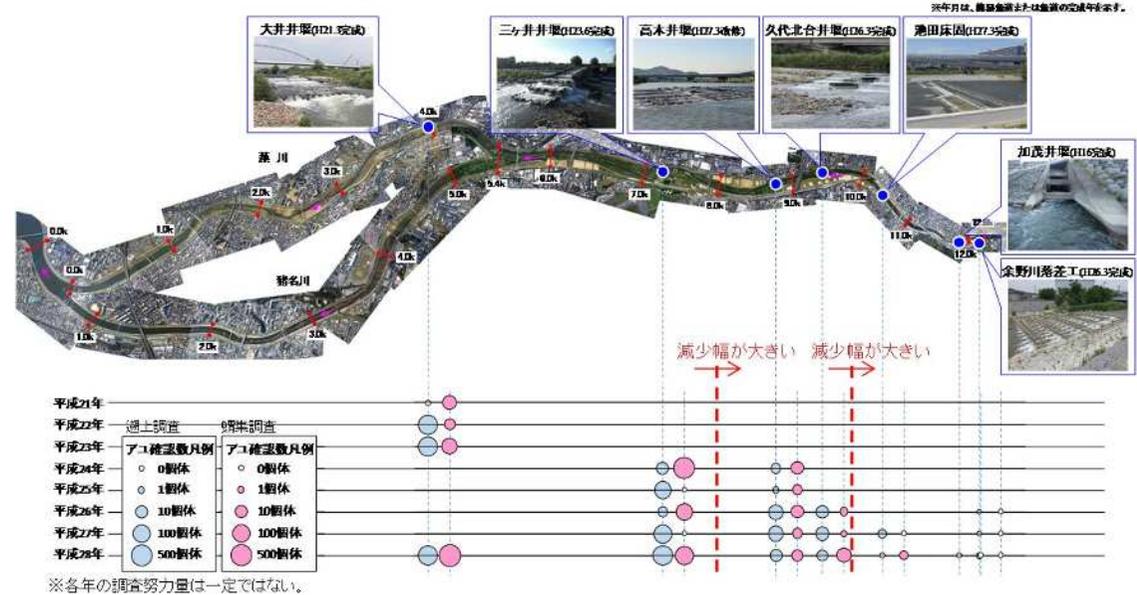
3. 河川環境の特性

猪名川・藻川では、簡易魚道の設置を行っており、猪名川で遊泳魚の代表となるアユ、及び底生魚の代表となるウキゴリ、エビ・カニ類の代表となるモクズガニに着目すると、以下のような分布状況となっており、魚類の移動に関して一定の縦断的な連続性が確保されている。

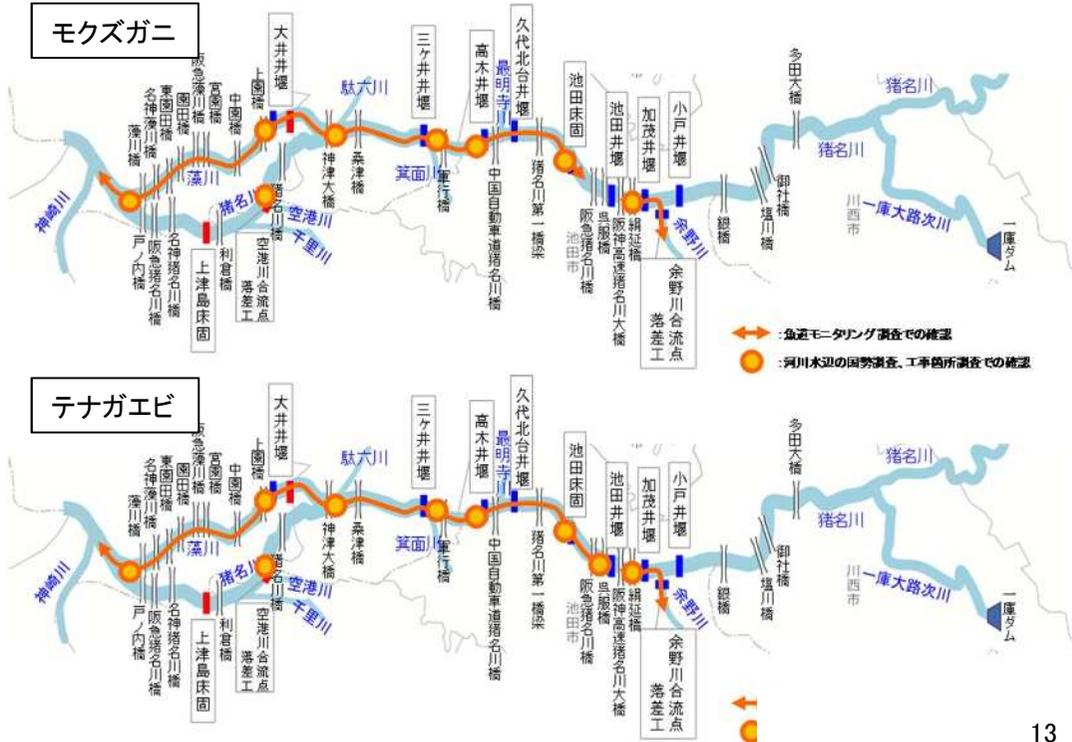
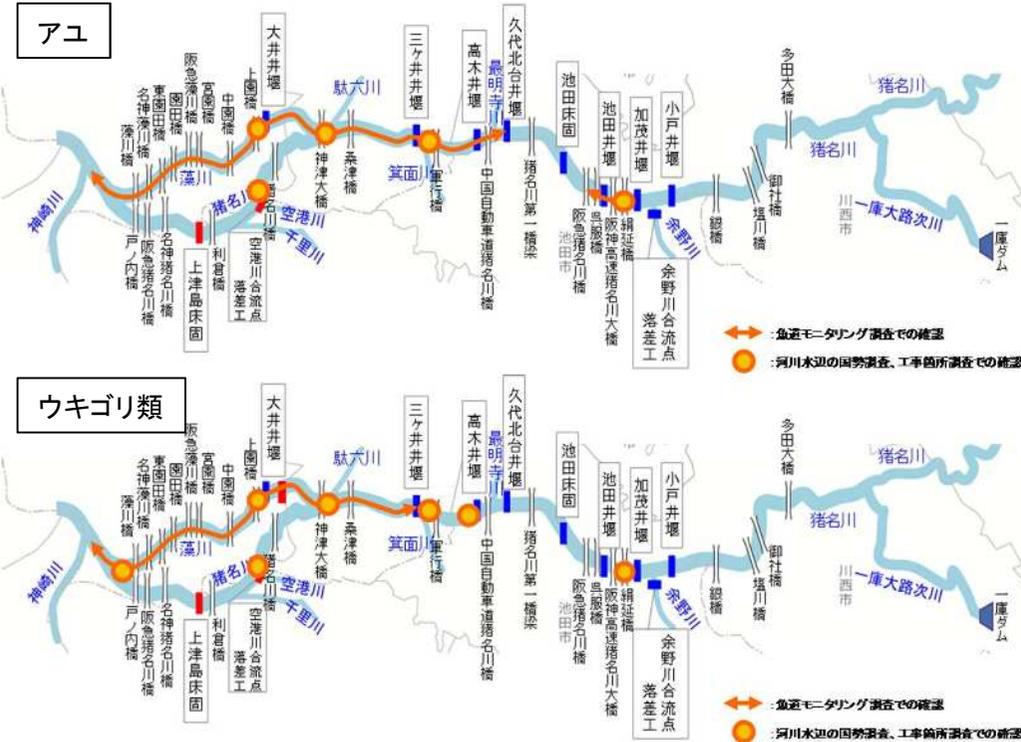
- アユは、加茂井堰を除く全地点で遡上している。但し、三ヶ井井堰より上流にはほとんど遡上せず、多くの個体が三ヶ井井堰より下流で定着している。
- ウキゴリ類は、池田床固まで分布している。
- モクズガニ、テナガエビは、池田井堰以外の全地点で遡上している。

3.4 回遊性の魚類及びエビ・カニ類の生息状況

各井堰等におけるアユの捕獲個体数(平成21年～平成28年の平均値)



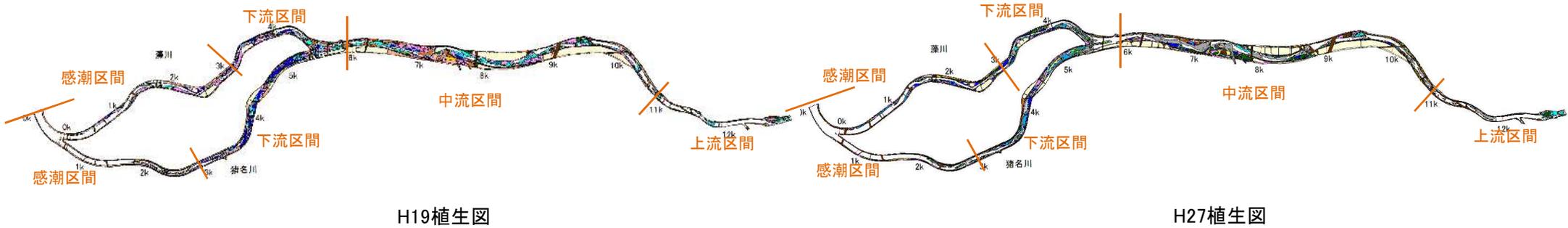
各井堰等における回遊性魚類・底生動物の分布状況(平成29年度調査結果)



3. 河川環境の特性

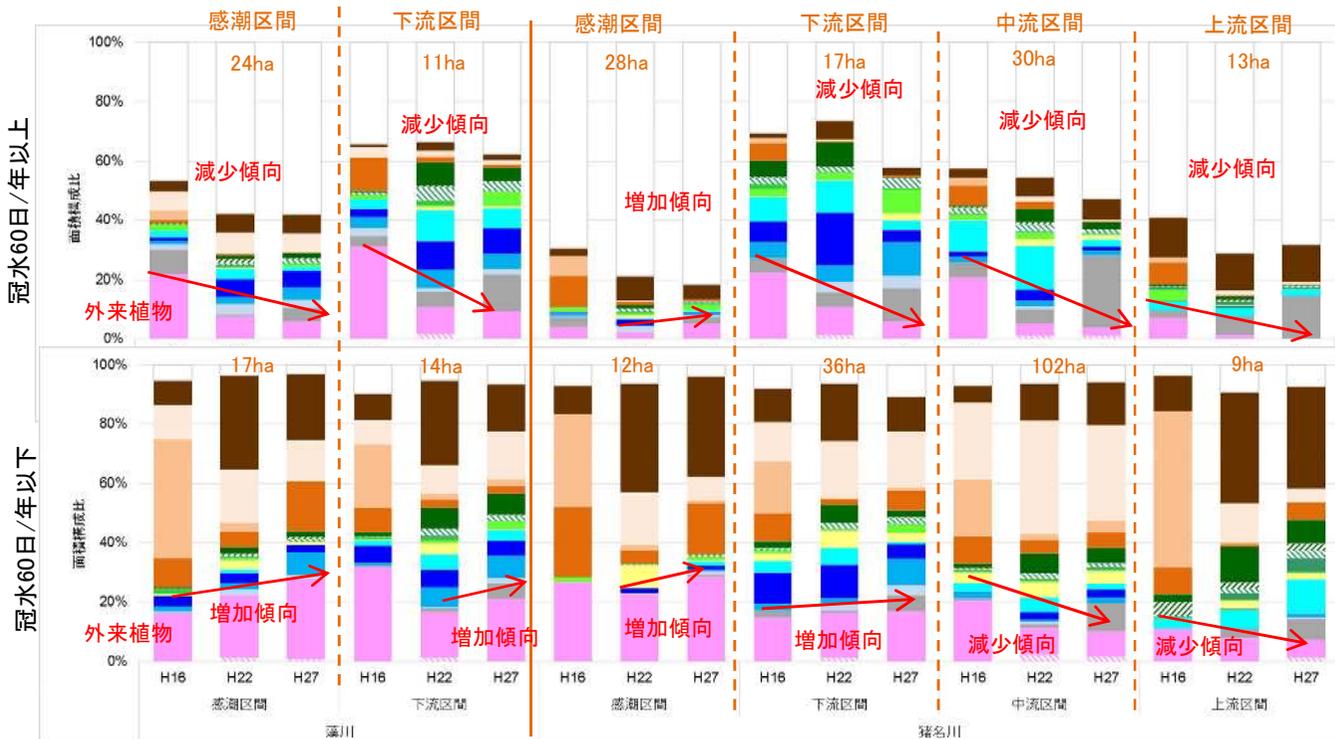
猪名川の湿性植物群落の指標となる60日冠水に着目し、現況河道における60日冠水以上及び以下の範囲に分けて、それぞれ植物群落の経年変化を整理した。

- ・ 冠水頻度が年間60日以上範囲…猪名川の感潮区間を除き、外来植物群落の減少がみられた。河道掘削や、平成25年、26年の出水による攪乱の影響であると考えられる。
- ・ 冠水頻度が年間60日以下範囲…猪名川中流から上流を除き、外来植物群落(草本)の増加がみられた。高水敷でセイバンモロコシ群落の分布が拡大したためと考えられる。



H19植生図

H27植生図



縦断区分ごとの植生区分の経年変化

色見本	環境区分	含まれる群落など
自然裸地	自然裸地	自然裸地
ヨシ群落	ヨシ群落	ヨシ群落
オギ群落	オギ群落	オギ群落
セイタカヨシ群落	セイタカヨシ群落	セイタカヨシ群落
ツルヨシ群落	ツルヨシ群落	ツルヨシ群落
ネコヤナギ群落	ネコヤナギ群落	ネコヤナギ群落
メヒシバ群落	メヒシバ群落	メヒシバ群落
流水辺一年草群落	オオイヌタデ・オオクサキビ群落、ジュズダマ群落、ミノソバ群落、ヤナギタデ群落	
抽水植物群落	セリクサヨシ群落、ヒメガマ群落	
河辺林	アキニレ群落、ムクノキ・エノキ群落	
河辺林(ヤナギ林)	カワヤナギ群落、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落(低木林)	
陽地性低木林	クコ群落、ノイバラ群落、マダケ植林、マダケ群落、ヤマグワ群落	
つる植物群落	カナムグラ群落、クズ群落、ヤブガラシ群落	
外来植物群落(草本)	アレチウリ群落、アレチハナガサ群落、イヌキイモ・キイモ群落、オオオナモミ群落、オオカナダモ群落、オオタマヨシ群落、オオカタコメ群落、キシウズメノヒゲ群落、ココメ群落、コセンダングサ群落、シナダレスメガヤ群落、シマスズメノヒゲ群落、シャクチリソバ群落、セイトカアワダチソウ群落、セイバンモロコシ群落、タチスズメノヒゲ群落、ネズミムギ群落、ヒメムカシヨモギ・オオアレチノギク群落	
外来植物群落(木本)	コノウゼンカズラ群落、シダレヤナギ植林、シナサワグルミ植林、シンジュ群落、センダン群落、ナンキンハゼ群落、ハリエンジュ群落	
路傍雑草群落	イタドリ群落、オシバ・アキメヒシバ群落、カラムシ群落、ギョウギシバ群落、ヨモギ・メドハギ群落	
刈り取り草原	ススキ群落、チガヤ群落	
グラウンドなど	シバ群落、公園・グラウンド	
構造物他	コンクリート構造物、果樹園、構造物、植栽樹林群、人工裸地、道路、畑地(畑地雑草群落)	
開放水面	開放水面	

(1) 特定外来生物の確認状況

河川水辺の国勢調査による特定外来生物の確認状況を示す。

- 哺乳類では、ヌートリアが平成15年以降、アライグマが平成23年以降の河川水辺の国勢調査で確認されている。
- 両生類では、ウシガエルが平成5年の河川水辺の国勢調査において継続的に確認されている。
- 植物では、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク等、5科6種の生育が確認されている。
- 河川水辺の国勢調査では、鳥類、陸上昆虫類、底生動物の特定外来生物の生息は確認されていない。

植物

No.	科名	和名	河川水辺の国勢調査					
			H6	H11	H16	H21	H22	H27
1	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ				○	○	
2	ウリ	アレチウリ	○	○	○	○	○	●
3	アリノトウグサ	オオフサモ	○					
4	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	○	○	○	○	○	●
5	キク	オオキンケイギク		○	○	○	○	●
6		ナルトサワギク			○		○	●
合計	5科	6種	3	3	4	4	5	4

魚類

No.	目名	科名	和名	河川水辺の国勢調査					
				H2	H7	H12	H17	H19	H24
1	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ				○	○	●
2	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	○	○	○	○	○	●
3			オオクチバス	○	○	○	○	○	●
合計	2目	2科	3種	2	2	2	3	3	3

両生類・爬虫類

No.	目名	科名	和名	河川水辺の国勢調査			
				H5	H10	H15	H23
1	無尾目	アカガエル科	ウシガエル	○	○	○	●
2	ネズミ目(齧歯目)	ヌートリア科	ヌートリア				○
3	ネコ目(食肉目)	アライグマ科	アライグマ				○
合計	3目	3科	3種	1	1	1	1



アレチウリ



オオクチバス



ヌートリア

(2) 地域住民や団体等との協働による外来植物の抜き取り

- 在来植物を回復し、生物の多様性を確保するため、地域の住民や団体等との協働により、在来植物の植え戻し、外来植物の抜き取りを継続的に実施している。



対策前

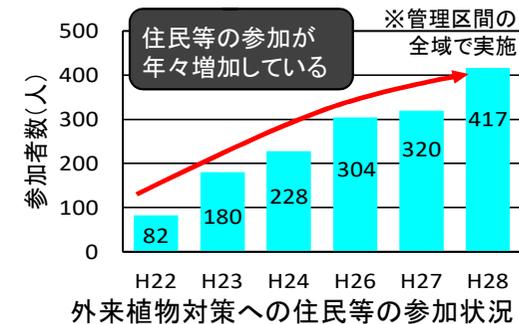
外来植物が在来植物を排除し、植物の種の多様性を低下させる



対策後

生態系や治水・利水等に影響が小さい元の環境を取り戻す

対策実施前後 (猪名川8.0k付近)



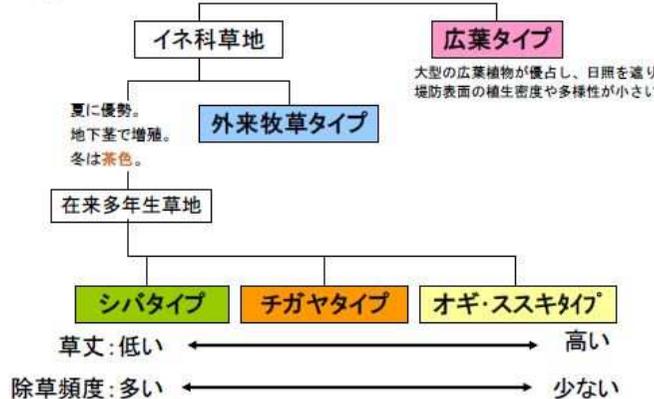
- 猪名川の堤防植生は、シバやチガヤ等の在来植生が一部で見られるが、セイバンモロコシ等、外来種の繁茂が著しい。
- 外来種は堤防に対する耐性が低いことによる堤防が有する所要の機能の維持、草丈が高いことによる河川巡視上の支障になる懸念がある。
- 近畿地方整備局では現在、低草丈草種(TM-9:改良コウライシバ)への植生転換により堤防除草コストの縮減を図るとともに、堤防が有する所定の機能を維持や巡視への支障の回避を図る取り組みが試行されている。

植生タイプの変化(猪名川)

位置	左岸		右岸	
	H22年度堤防植生区分	H27年度堤防植生区分	H22年度堤防植生区分	H27年度堤防植生区分
0.0k	—	—	—	—
0.2k	—	—	—	—
0.4k	—	—	—	—
0.6k	1シバタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
0.8k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
1.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
1.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
1.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
1.6k	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
1.8k	4広葉タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
2.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
2.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
2.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
2.6k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
2.8k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
3.0k	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
3.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
3.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
3.6k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
3.8k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
4.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
4.2k	2チガヤタイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
4.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
4.6k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
4.8k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
5.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
5.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
5.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
5.6k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
5.8k	1シバタイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ
6.0k	1シバタイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ
6.2k	1シバタイプ	4広葉タイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
6.4k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
6.6k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
6.8k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
7.0k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
7.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
7.4k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
7.6k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
7.8k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
8.0k	1シバタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
8.2k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
8.4k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
8.6k	1シバタイプ	2チガヤタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
8.8k	1シバタイプ	4広葉タイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
9.0k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	2チガヤタイプ
9.2k	1シバタイプ	1シバタイプ	—	3外来種タイプ
9.4k	1シバタイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
9.6k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
9.8k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
10.0k	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ	1シバタイプ
10.2k	1シバタイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ	2チガヤタイプ
10.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	4広葉タイプ
10.6k	1シバタイプ	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	4広葉タイプ
10.8k	1シバタイプ	3外来種タイプ	—	4広葉タイプ
11.0k	1シバタイプ	1シバタイプ	—	—
11.2k	1シバタイプ	—	3外来種タイプ	1シバタイプ
11.4k	1シバタイプ	—	3外来種タイプ	1シバタイプ
11.6k	—	—	1シバタイプ	4広葉タイプ
11.8k	1シバタイプ	—	1シバタイプ	4広葉タイプ
12.0k	—	—	1シバタイプ	4広葉タイプ
12.2k	4広葉タイプ	4広葉タイプ	1シバタイプ	4広葉タイプ
12.4k	3外来種タイプ	4広葉タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
12.6k	4広葉タイプ	6樹木	18その他区分	—

植生タイプの変化(藻川)

位置	左岸		右岸	
	H22年度堤防植生区分	H27年度堤防植生区分	H22年度堤防植生区分	H27年度堤防植生区分
M0.0k	3外来種タイプ	—	1シバタイプ	3外来種タイプ
M0.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	4広葉タイプ	3外来種タイプ
M0.4k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M0.6k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M0.8k	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M1.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M1.2k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M1.4k	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M1.6k	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M1.8k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ
M2.0k	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M2.2k	—	3外来種タイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
M2.4k	—	1シバタイプ	1シバタイプ	3外来種タイプ
M2.6k	3外来種タイプ	1シバタイプ	—	3外来種タイプ
M2.8k	3外来種タイプ	1シバタイプ	—	1シバタイプ
M3.0k	—	1シバタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ
M3.2k	—	1シバタイプ	3外来種タイプ	1シバタイプ
M3.4k	—	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M3.6k	1シバタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M3.8k	1シバタイプ	3外来種タイプ	—	1シバタイプ
M4.0k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M4.2k	3外来種タイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ
M4.4k	2チガヤタイプ	2チガヤタイプ	3外来種タイプ	3外来種タイプ



堤防植生のタイプ

(出典:地域との協働による多様性に富んだ堤防植生づくり手引書(案) ~今後の普及に向けて~ 平成27年3月 七草堤防プロジェクトワーキンググループ 利根川下流河川事務所)

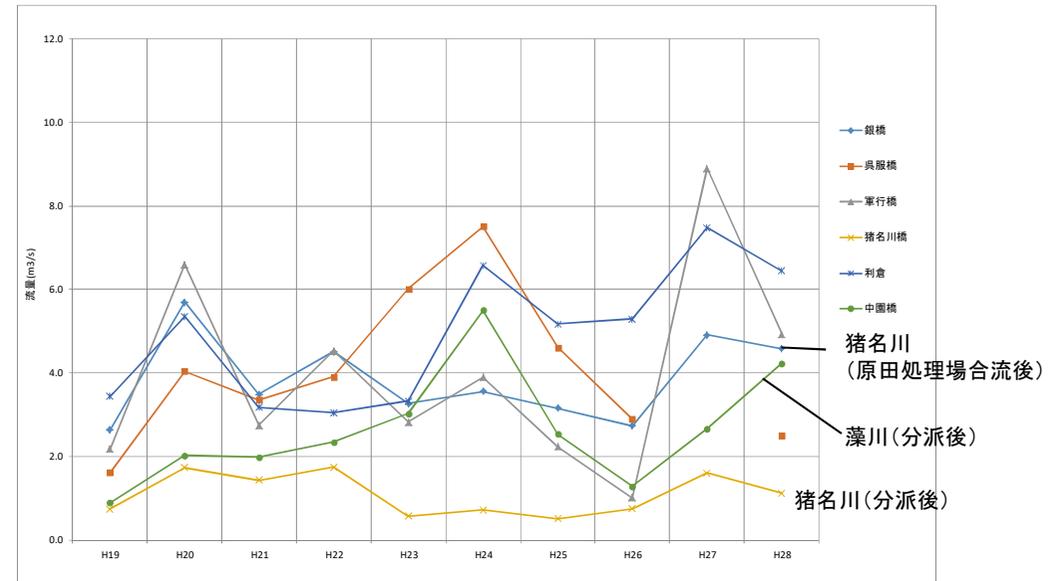
植生区分別(種類)の出現回数

堤防植生区分	種類	猪名川H22		猪名川H27		藻川H22		藻川H27	
		左岸	右岸	左岸	右岸	左岸	右岸	左岸	右岸
1 シバタイプ	シバ群落	23	30	10	14	5	3	6	4
2 チガヤタイプ	チガヤ群落	2	1	11	12	1	1	3	0
3 外来種タイプ	アレチハナガサ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	オニウシノケサ群落	10	5	0	0	0	7	0	0
	オヒシバーアキメヒシバ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	コセンダングサ群落	0	1	0	0	0	0	0	0
	シナダレスズメガヤ群落	0	0	0	0	2	0	0	0
	セイタカアワダチソウ群落	0	1	0	0	0	1	0	0
	セイバンモロコシ群落	17	14	29	25	8	7	13	18
	タチスズメノヒエ群落	2	0	0	0	0	0	0	1
	ネズミムギ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒメムカシヨモギーオアレチノギク群落	1	0	0	0	0	0	0	0
メヒシバーエノコログサ群落	1	6	1	1	2	0	0	0	
4 広葉タイプ	イタドリ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	カラムシ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	カゼクサーオオバコ群落	0	0	2	7	0	0	0	0
	クズ群落	2	0	2	0	0	0	0	0
ヨモギーメドハギ群落	1	0	0	0	0	1	0	0	
5 オギ・スキタイプ	ススキ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツルヨシ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
6 樹木	アキニレ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジャヤナギーアカメヤナギ群落	0	0	1	0	0	0	0	0
	マダケ植林	0	0	0	0	0	0	0	0
	ムクノキーエノキ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	ホコヤナギ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
	メダケ群落	0	0	0	0	0	0	0	0
8 その他区分	植栽樹林群	0	0	0	0	0	0	0	0
	畑地(畑地雑草群落)	0	1	0	0	0	0	0	0
	樹園地	0	0	0	0	0	0	0	0

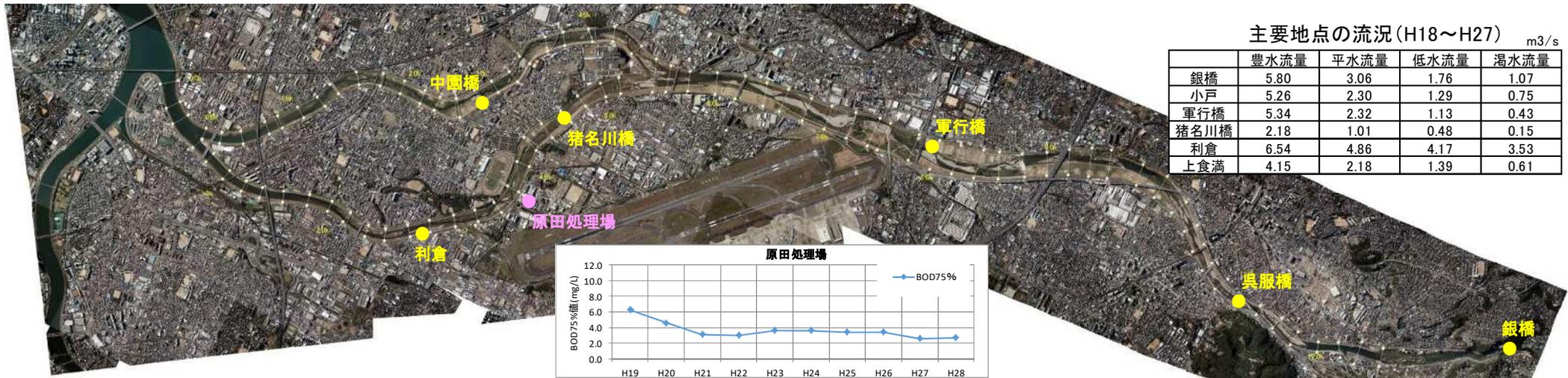
- 猪名川の平常時の流量は、分派後は藻川の流量が大きくなる。猪名川の分派後地点から原田処理場までの区間は流量の少ない区間となる。
- 猪名川の分派上流（銀橋～軍行橋）でのBOD(75%値)は、過去10年間、環境基準値を達成している。
- 猪名川の分派下流（猪名川(猪名川橋・利倉)、藻川(中園橋))でのBOD(75%値)は、中園橋と猪名川橋は過去10年間、環境基準値を達成している。
- 利倉地点はこれまで高い値を示していたが、H28年度に環境基準値を達成している。これは、近年の原田処理場の水質改善の効果等によるものと考えられる。



BOD(75%)の経年変化(平成19年度～平成28年度)



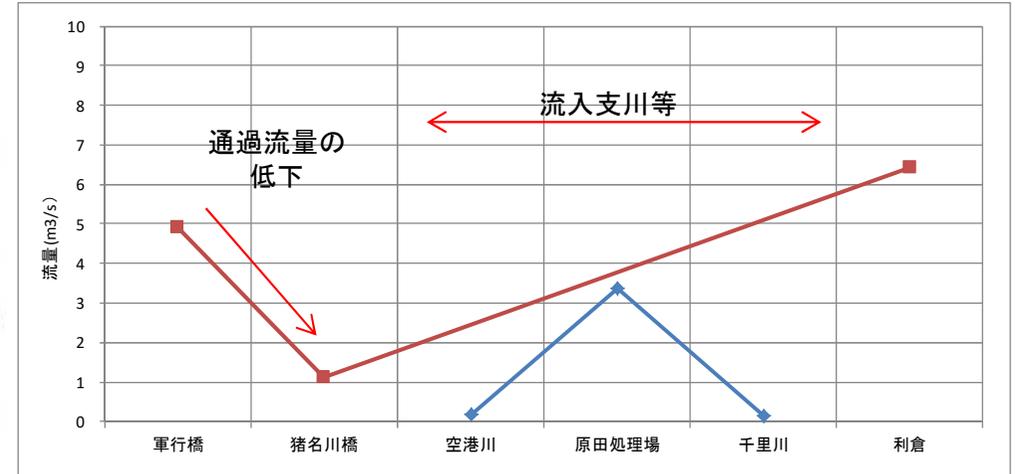
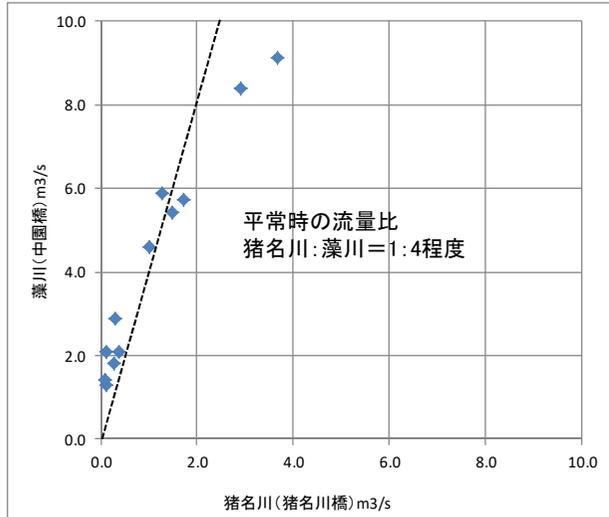
年平均流量の経年変化(平成19年度～平成28年度)



主要地点の流況 (H18～H27) m³/s

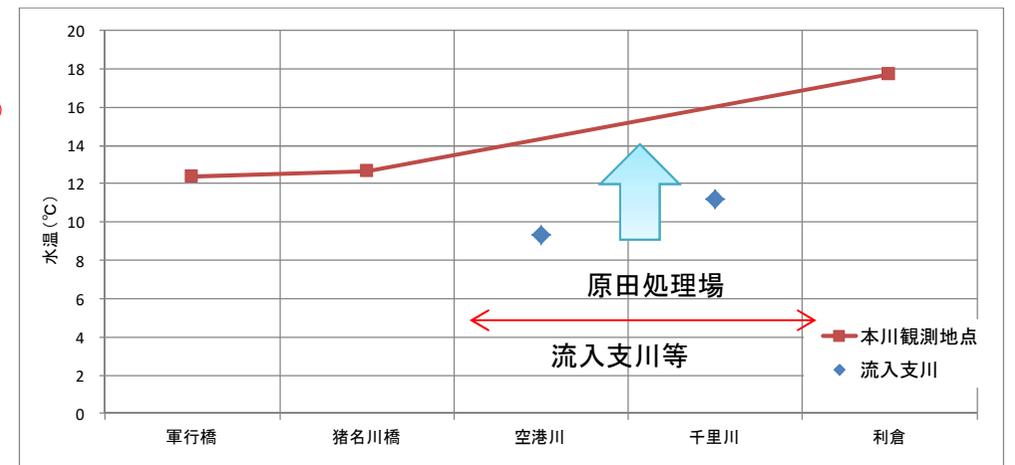
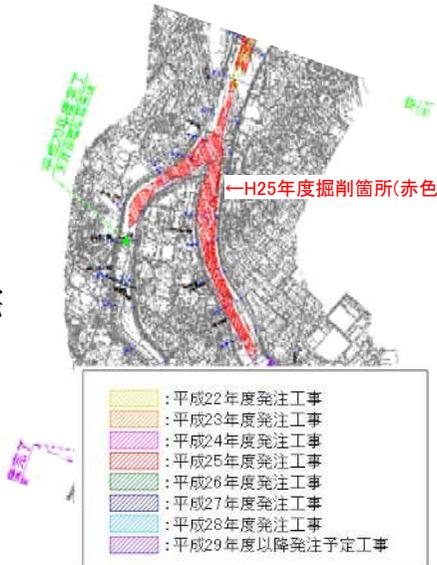
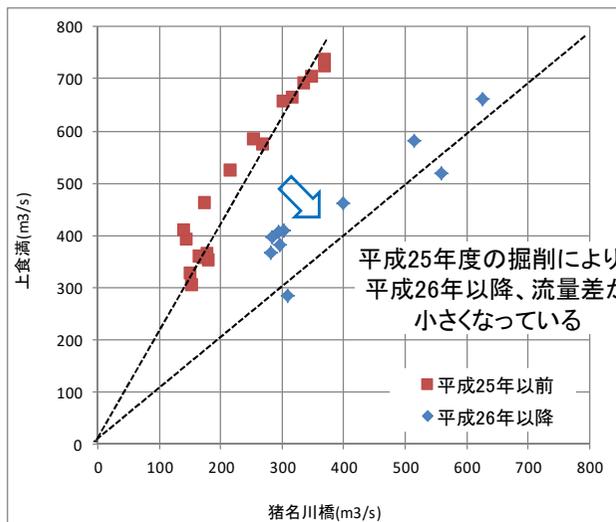
	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量
銀橋	5.80	3.06	1.76	1.07
小戸	5.26	2.30	1.29	0.75
軍行橋	5.34	2.32	1.13	0.43
猪名川橋	2.18	1.01	0.48	0.15
利倉	6.54	4.86	4.17	3.53
上食満	4.15	2.18	1.39	0.61

- 分派後の、猪名川と藻川の平常時の流量の割合は1:4程度になる。
- 出水時も同様の傾向にあったが、平成25年度の河道掘削により、平成26年度以降は猪名川と藻川の流量差が小さくなっている。
- 平常時の猪名川分派後の河道通過流量は、大きく低下するが、原田処理場の放流水の流入等により、利倉地点においては流量が回復する。
- 水温は冬季(11月~4月)における猪名川橋地点から利倉地点にかけて水温の上昇は、流入支川の水温はそれほど高くないため、原田処理場の影響と考えられる。



平常時の猪名川と藻川の流量(平成28年度の水質調査時) 分派下流 観測所位置図

分派後の猪名川の流量変化図(平成28年度の水質調査時)

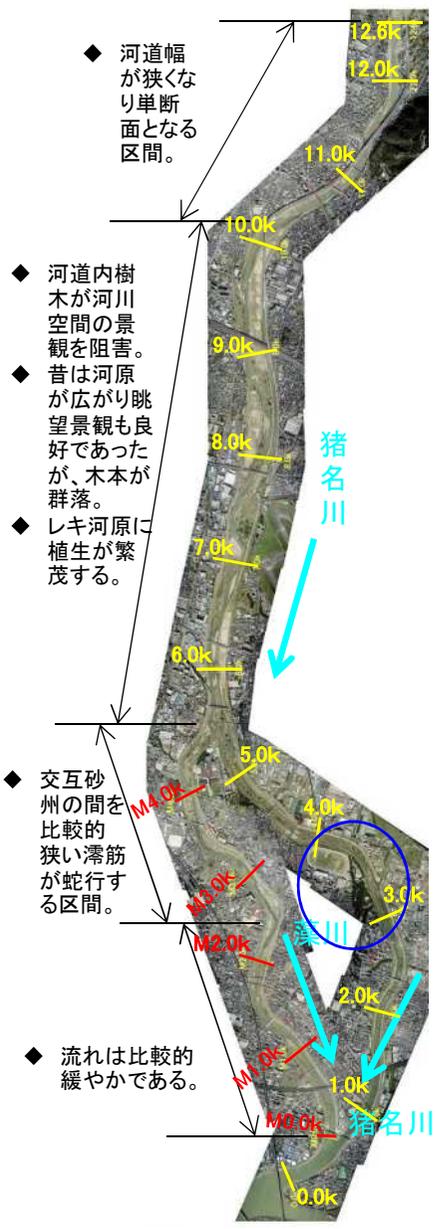


出水時の猪名川と藻川の流量
(平成18~平成27年 軍行橋500m³/s以上時の時間データ)

分派下流 掘削位置図

水質調査時水温 変化図(猪名川分派後:11月~4月)

参考資料 猪名川の現在と過去



猪名川・藻川(平成16年10月撮影)

1967年(S42)猪名川3.0k~4.0k付近

昭和42年9月 撮影



河道内に樹木が確認される。

2004年(H16)猪名川3.0k~4.0k付近

平成16年9月 撮影



河道内に樹木等の植生が確認される。

1970年(S45)猪名川3.0k~4.0k付近

昭和45年8月 撮影



利倉捷水路完成。

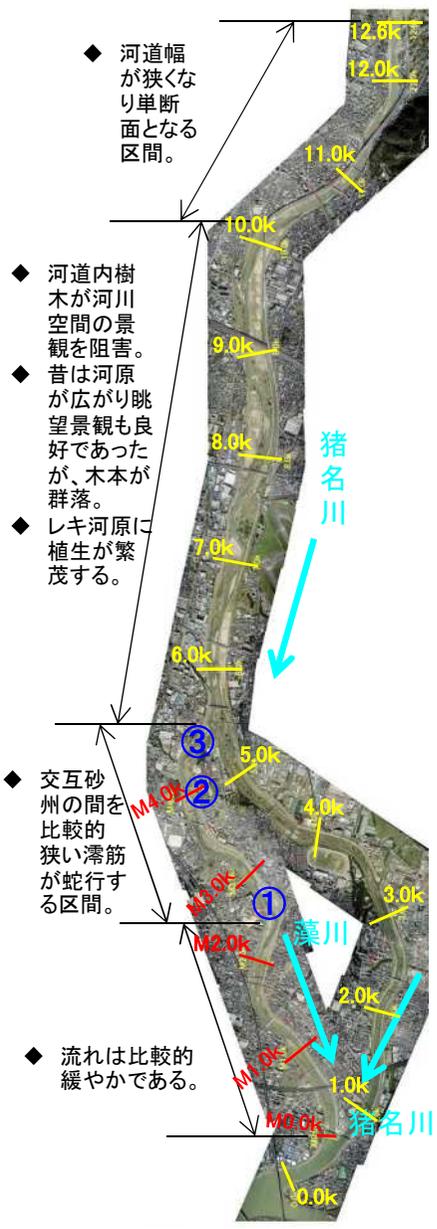
2015年(H27)猪名川3.0k~4.0k付近

平成27年11月 撮影



みお筋位置は比較的固定されている。
H25年度の掘削工事、H25・H26の出水により、一部河原環境が増加している。

参考資料 猪名川の現在と過去

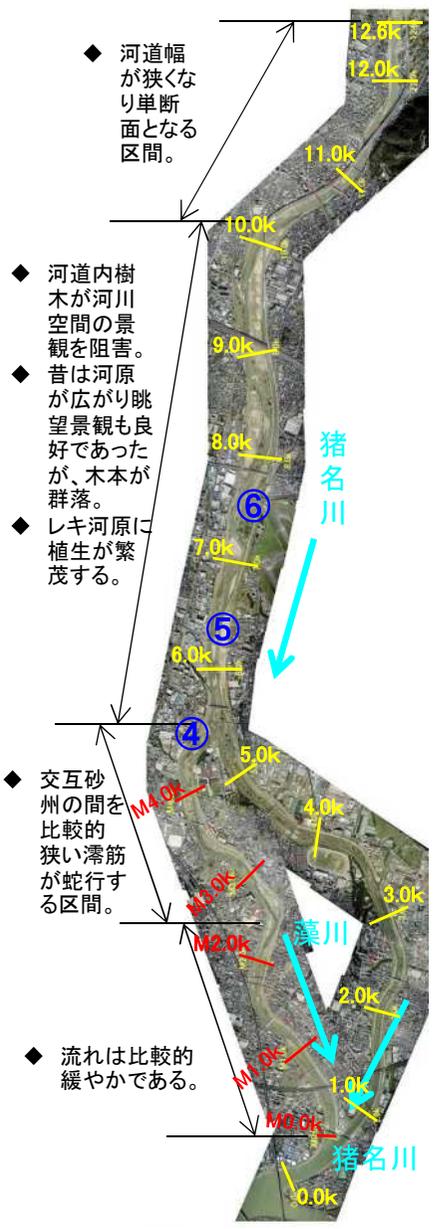


猪名川・藻川(平成16年10月撮影)

出典: 第9回、第10回猪名川自然環境委員会より作成(加筆、H28写真追加)

	昔	⇒	現在
①	1950年～1951年(S25～S26) 藻川2.8k付近(中園橋) 中園橋下流での友禅流しの光景。また、近所の農家の農耕馬の洗い場でもあった。当時は河原が広がっていた。	2005年(H17) 藻川2.8k付近(中園橋) アレチウリ群落が繁茂し、河原の面影はない。	2016年(H28) 藻川2.8k付近(中園橋)
②	1988年(S63) 藻川4.0k付近 当時は砂礫室の中洲が存在していた。	2005年(H17) 藻川4.0k付近 中洲にツルヨシ群落が繁茂している。	2016年(H28) 藻川4.0k付近
③	1995年(H7) 藻川分派付近_右岸より 当時は河原が広がっていた。	2005年(H17) 藻川分派付近_右岸より 堤防から水面が見えない状況である。ツルヨシ群落、ヨモギ・メドハギ群落、キシウススメノヒエ群落、ジャヤナギ・アカメヤナギ群落が繁茂している。	2016年(H28) 藻川分派付近_右岸より H25年度の掘削工事、H25・H26の出水により、植生が減少している。

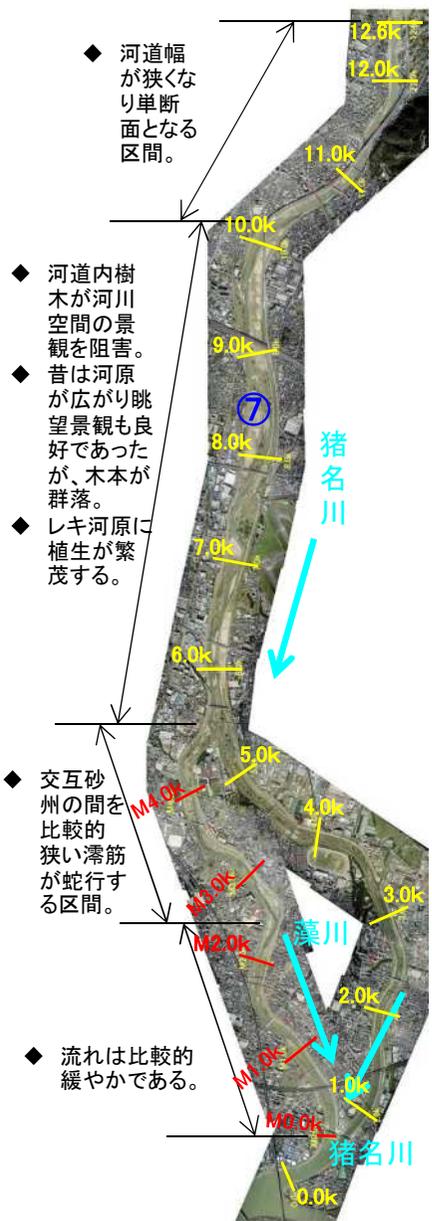
参考資料 猪名川の現在と過去



	昔	⇒	現在
④	<p>1999年(H11) 藻川分派付近_左岸より</p> <p>当時は河原が存在していた。水際部にはツルヨシ群落、オオクサキビ群落が繁茂していた。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	<p>2005年(H17) 藻川分派付近_左岸より</p> <p>水際部には小規模な河原が存在している。背後にはツルヨシ群落、シナサワグルミ群落が繁茂している。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	<p>2016年(H28) 藻川分派付近_左岸より</p>
⑤	<p>1995年(H7) 猪名川6.4k付近</p> <p>当時は河原が広がっていた。</p> <p>事務所撮影</p>	<p>2005年(H17) 猪名川6.4k付近</p> <p>河原だった箇所は、ヨモギ・メドハギ群落が繁茂している。高水敷が造成されており河岸にはシナサワグルミ群落が繁茂している。</p> <p>事務所撮影</p>	<p>2016年(H28) 猪名川6.4k付近</p>
⑥	<p>2000年(H12) 猪名川7.6k付近</p> <p>当時は河原が広がっていた。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	<p>2005年(H17) 猪名川7.6k付近</p> <p>河原だった箇所は、セイタカアワダチソウ群落、ツルヨシ群落、クズ群落が繁茂している。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	<p>2016年(H28) 猪名川7.6k付近</p> <p>H25・H26の出水により、一部河原環境が増加している。</p>

出典: 第9回、第10回猪名川自然環境委員会より作成(加筆、H28写真追加)

参考資料 猪名川の現在と過去

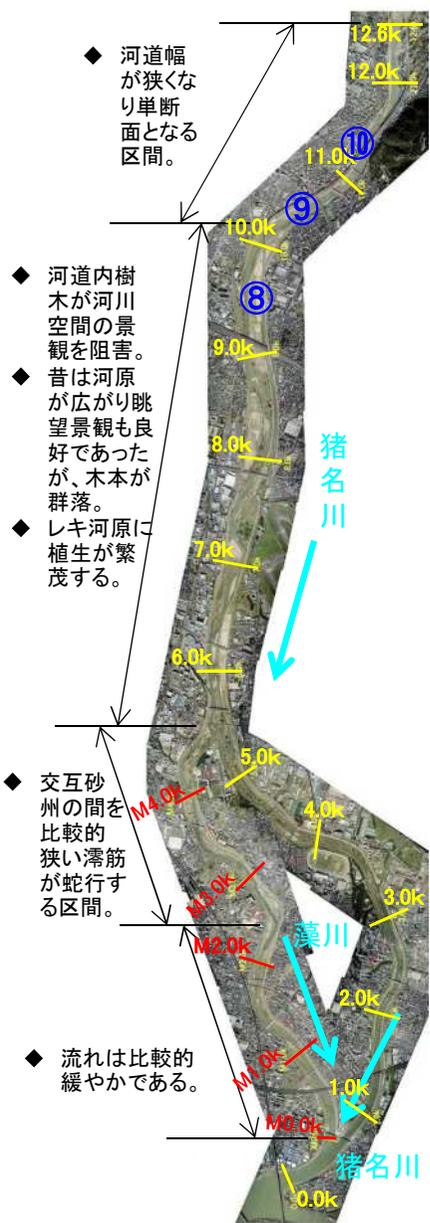


猪名川・藻川(平成16年10月撮影)

出典：第9回、第10回猪名川自然環境委員会より作成(加筆、H28写真追加)

	昔	⇒	現在
⑦	<p>1985年(S60) 猪名川8.4k付近</p> <p>当時は河原や水域が広がっていた。</p> <p>出展：事務所撮影</p>	<p>2005年(H17) 猪名川8.4k付近</p> <p>河原だった箇所は乾燥化しており、セイタカアワダチソウ群落、カナムグラ群落、ジャヤナギアアカメヤナギ群落が繁茂している。</p> <p>出展：事務所撮影</p>	<p>2016年(H28) 猪名川8.4k付近上流</p> <p>北伊丹地区河原再生事業(H22.3)、H25・H26の出水により、一部河原環境が増加している。</p>
	<p>1985年(S60) 猪名川8.4k付近</p> <p>当時は河原が広がっていた。</p> <p>出展：事務所撮影</p>	<p>2005年(H17) 猪名川8.4k付近</p> <p>河原だった箇所は乾燥化しており、セイタカアワダチソウ群落、カナムグラ群落、オギ群落、ツルヨシ群落、ムクノキエノキ群落が繁茂している。</p> <p>出展：事務所撮影</p>	<p>2016年(H28) 猪名川8.4k付近下流</p> <p>北伊丹地区河原再生事業(H22.3)、H25・H26の出水により、一部河原環境が増加している。</p>

参考資料 猪名川の現在と過去



	昔	⇒	現在
⑧	1985年(S60) 猪名川9.6k付近(久代北台井堰)  <p>当時は水域が広がっていた。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	2005年(H17) 猪名川9.6k付近(久代北台井堰) 井堰下流部にツルヨシ群落、カワヤナギ群落、トウネズミモチーセンダン群落が繁茂している。  <p>出展: 事務所撮影</p>	2016年(H28) 猪名川9.6k付近(久代北台井堰) 簡易魚道を設置(H25年度)  <p>出展: 事務所撮影</p>
⑨	1985年(S60) 猪名川10.4k付近(池田床固め)  <p>河岸にツルヨシ群落が繁茂していた。</p> <p>出展: 事務所撮影</p>	2005年(H17) 猪名川10.4k付近(池田床固め) 広域にツルヨシ群落が繁茂している。  <p>出展: 事務所撮影</p>	2016年(H28) 猪名川10.4k付近(池田床固め) 簡易魚道を設置(H26年度) H27年度河道掘削により河原環境が増加した。  <p>出展: 事務所撮影</p>
⑩	1952年(S27) 猪名川11.2k付近 猪名川での水泳授業の様子  <p>出展: 「池田50年写真集」市制施行記念誌</p>	2005年(H17) 猪名川11.2k付近 藻やヘドロ状と化しており、とても泳げる様子ではなかった。  <p>出展: 事務所撮影</p>	2016年(H28) 猪名川11.2k付近 H26年度に河道掘削を実施、既設根固めブロックを撤去した。  <p>出展: 事務所撮影</p>

出典: 第9回、第10回猪名川自然環境委員会より作成(加筆、H28写真追加)